



古
書

近藤氏藏書			
一	四	歴	和
〇	六	史	書
冊	號	函	門

リ 5
6039
6



リ 5
6039
6

大圖 元十二



相換國小田原氏政家傳之事



兵糧舟の之事

小田原忠色茂之變

佐氏政山中之城入和勢之り

小田原藤山南城押之變

同宮松田忠志之變

山中落城之變

敵方所し人殺城之り

板合麻



氏政龍城之事

上州松枝之城主成隆人事

松山之城主八王寺之事

武州新水城之事

小田原回者再忍之城之事

岩付原城之事

松田尾張守事 小田原城復讐之事

氏政氏照切腹之事

奥州九戸之事

仰知り割く事

針

再坪

大同元十二年

相摸國小田原氏政家傳之事

抑小條大系太史氏政の由事と事為りやう事 平相

國之八男助盛の末裔伊勢新九郎と云一人是

其元祖也於備中國不知三百歳之節至有

三の立牙之廟之畫思惟親行進たり之り

三のそとれ一。その國之守護を可犯し理しゆ

國を謀るらん力急しと云。三百歳之代と同

姓の家子賣授字詒次乃一と云と云と云

武男且備しと云と云人石具一原正三事

小流南董老記碑録



奉情

去國東として武志修治シユキヤクおなりの先日照大神を
奉^侍祭^キるやと思ひ至山田三七日滅とあり新^キ志^シ
了て立子あり。其比駿河國之大守今川兼光
殷富^{イニフ}され人々新九郎護府子遠留^{トウリウ}一國之仕並
軍法修とゆゆり。起る人々一宗と見えなれ。此大
守に奉^{ツカ}へんと思ひ迎^{キニシ}習子使^シと片とんりし。望
しらく。即お御慮^{ミヨウ}後之片と成りたり。新九郎大黒
乃程と大守尺あり。三百人之勢と附^{ツケ}居^イ不^フ漸^{シユ}武
勇之功とあり。一の長祿二年十月伊豆國並山
之城主とありてあり。と川後此節やしく並山

を色とのと知^チ知^チひて。さか^カに他^タ知^チ也。每物の新^シ法^{ホウ}
無^ム私^シ心^{シン}とゆりなれ。氏と親^ニ之^ノ古^コ卒^{ソウ}とて休^ヒ
乃^ノお^オ阿^アふ^フあ^ア一^一終^{シユ}る^ルや^ヤ聖^{セイ}子^シ豆^{トウ}列^{リツ}之^ノ大^{ダイ}敵^{テキ}と
乙^ニ一^一國^{クニ}平^{ヘイ}均^{クン}子^シ近^{キン}治^チ一^一乃^ノ公^{コウ}利^リ。即^キ休^ヒる^ルを^ヲ護^ゴ
職^{シヨク}子^シ補^ホと^トあり。乃^ノ終^{シユ}る^ル在天^{テン}と^トあり。律^{リツ}運^{ウン}成^{セイ}
と^トあり。と此^{コノ}氏^ノ並^ニま^マり。五代^{ゴダイ}あり。新^シ九^ク郎^{ロウ}兼^{ケン}幸^{コウ}
人^ニ乃^ノま^マり。ち^チあり。固^コて^テ也^ヤ第^{ダイ}並^ニ備^ヒり。士^シと^ト撰^{セン}幸^{コウ}
志^シは^ハ羽^ウ野^ノ成^{セイ}ぬ。七十^{シチジュウ}ありて。か^カ切^キり。志^シ乃^ノりて
早^{サウ}雲^{ウン}と^トあり。長^{チヤウ}子^シ氏^ノ總^{ソウ}子^シ家^カ督^{トク}あり。安^{アン}向^{コウ}を
乃^ノ境^{キヤウ}界^{カイ}子^シ信^{シン}一^一終^{シユ}る^ル。氏^ノ總^{ソウ}子^シ且^ニ氏^ノ康^{コウ}其^キ子

氏政の子氏直^ニ此連續^シ—。五代^ノ〜七^ノ氏
 政^ハ連^ニ國^トと押^シ—。振^シ威^ハ不^レ忘^ル。自ら思^フ。武^ノ
 成^ハ余^ニ對^シて法^ヲ後^ニ乃^チ勤^ムらう。秀^ガ吉^ト云^フ以^テ是^レ
^レ之^レ襲^ム。を^レと^シ具^シと改^メま^リ。一^ノ津^ノ田^ノ軍^ト
 人^ハ佐^メ田^ノ方^ヲを^レ世^ニと^シ使^ス志^トと^シて^レ善^ク下^ラ。と^レ上^ニ
 系^ノ系^ノ内^ニ可^ク務^ムらん也。あ^リま^リ。この國^ヲを^レ領^シす。不^レ知^ル
 君^ノ息^ノ人^ハ地^ノ人^ノ子^トと^シ理^トを^レ盡^ス。一^ノ美^シと^シ精^ク—。
 廣^クと^シ孫^ヲ好^ムひ—。并^ニ才^ハ一^ノ取^リ板^ノ山^ノ之^レ部^ノ所^ヲを^レ兼^テす。
 才^ハ二^ノ才^ハを^レ國^ノの子^トな^リん^レ。あ^リま^リ。と^レぞ^シま^リ。
 一^ノよ^クも^シ備^フ—。と^レ思^フひ^ニ—。あ^リま^リ。諫^メし^テ。吹^ス。ふ^ノの^レ名^ノの^レこ

—て^レ實^カ多く。又^シひ^ニ—。一^ノあ^リま^リ。い^ハあ^リま^リ。した^レ
 た^レ武^ノ余^ノ子^ト應^ズ不^レ應^ズ。中^ニと^シ巧^クに^テ行^フて^レま^リ月^トと
 一^ノつ^レり^なる^ル。と^レつ^レり^なる^ル。一^ノあ^リま^リ。と^レぞ^シま^リ。と^レぞ^シま^リ。
 や^ト也。百^ノ謀^ノ千^ノ意^ト—。と^レけ^レら^ハ。若^シ平^氏乃^チ軍^ヲ督^ス十
 万^ノ餘^ノ。由^リ并^ニ津^ノ系^ノ一^ノ陣^トと^レ取^ルる。一^ノあ^リま^リ。合^シ戦^スの^レ事^ト
 一^ノん^レ及^ブし^テ。あ^リま^リ。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。と^レぞ^シま^リ。と^レぞ^シま^リ。と^レぞ^シま^リ。
 一^ノあ^リま^リ。一^ノあ^リま^リ。や^トと^レ云^フら^ハひ。只^シ國^ヲの^レ所^ヲを^レ兼^テす。不^レ忘^ル
 者^ト。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。
 一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。
 一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。一^ノあ^リま^リ。乃^チお^ノ言^ハす。

使^レとて^レ取^レり^レせり。能^レ分^レ陣^レ田^レ富^レ田^レと^レを^レ又^レ後^レと
推^レ察^レし^レ。後^レ了^レ上^レて^レた^レる^レ者^レ之^レ上^レ一^レ守^レり。秀^レ若^レ
云^レ伊^レ右^レ相^レ。若^レ平^レ宗^レ盛^レ云^レ。武^レ名^レ川^レ一^レ守^レり^レ所^レ上^レつ^レる^レ
所^レや^レ。其^レと^レあ^レり^レて^レも^レよ^レれ。其^レと^レを^レ其^レ
虚^レ実^レと^レ見^レせ^レり^レ。然^レん^レ物^レと^レ也^レ。然^レる^レお^レり^レて^レも^レ
り^レ。亦^レ乃^レ。ほ^レと^レ一^レ守^レり^レて^レも^レよ^レれ。

○本^レ去^レ同^レ東^レ陣^レ法^レ軍^レ保^レく^レ事^レ

五^レ等^レ四^レ守^レ役^レ中^レ國^レ七^レ人^レ役^レ再^レ四^レ國^レ曰^レ△

坂^レ下^レり^レ尾^レ列^レ子^レ五^レて^レ六^レ人^レ役

水^レ國^レ六^レ人^レ守^レ役^レを^レ二^レ後^レ甲^レ位^レ此^レ五^レヶ^レ國^レ七^レ人^レ役

右^レ任^レ軍^レ保^レく^レ者^レ。其^レ去^レ三^レ月^レ朔^レ日^レ之^レ新^レ陣^レ。政^レ事^レ於^レ
小^レ田^レ原^レ水^レ條^レ。其^レ志^レ勤^レ志^レ也^レ。如^レ傳^レ。

天^レ正^レ十^レ七^レ年^レ己^レ丑^レ十^レ月^レ十^レ日

秀^レ若^レ判^レ判

と^レ去^レり^レ國^レ之^レ人^レ廻^レ文^レ有^レる^レ

○兵^レ糧^レを^レ守^レり^レ之^レ事^レ

長^レ兼^レ大^レ荒^レ大^レ捕^レと^レ首^レと^レて^レ一^レ守^レり^レ之^レ水^レ原^レに^レて^レ
彼^レ派^レ付^レ。年^レ内^レに^レ代^レ出^レり^レて^レ一^レ守^レり^レ之^レ二十^レ万^レ石^レ徳^レ取^レ也^レ
去^レ年^レより^レも^レ水^レ原^レに^レ換^レ設^レ別^レに^レ尾^レ法^レ多^レし^レと^レも^レ也^レ。其^レ如^レ傳^レ
と^レ立^レ入^レ置^レ也^レ。其^レ軍^レ勢^レよ^レの^レお^レ後^レ告^レ也^レ。其^レ黄^レ金^レを^レ其^レ牧

彼お渡野尾三ヶ渡五ヶ園子とありて兵糧
 網能子合海店小田原を道の船着くおお船が被
 作お何も十一月初旬より方々之傳へ急げり
 村。流平路次中 狼藉寫るまきやうよと有行
 をおさき。宿をもしけしあんとさやうに第一結
 ひし一敷。寔六万餘の多勢をれは軍法正
 しこれ御の口端をれはせしやうあり
 子せりり。

○相列小田原諸を渡りて事

去年十月小田原一の法陣あり有し時多しの日

利
 徳
 利
 徳
 利
 徳

教之極よきて怪おしとありし。天正十八年十一月も統の
 終よとやくも日教三月中此日毛漸とさされの終よと初
 て三月朔日之日限あるやうに因際ぬる人多うりなり。
 又畿南海山陰山陽山陰并 江州濃河伴等教合を統勢廿
 二万騎野尾二洲八信雄の萬原也一万又子騎甲信後
 を三の家康の分國を統勢二万又子騎。三月朔日よ打立
 ちよ此使小田原の宿陣に泊りしけし合るしとあり。先
 陣八富士乃根の由井蒲原よ充滿せしる後陣ハ
 尾濃のりておて夕の毛利右馬次輝元(教清)等也
 と教清小田原の軍勢を統勢二萬と統勢二萬と統勢二萬と

此法家如以五月沙汰一在城より。同家を吉川義元
 廣家と三州墨崎城に陣中を要する付軍共一
 万五千と入城し。お別な集の射隆系并安國寺と八宮
 百連旨あり。軍士三万として出系伏せはる。かへ秀吉
 三月十九日初とさせ給ふ。目出立作の發より。黒也
 此右の美濃をとしく交善やに相し。流ひ。権の連。伏水
 此の信流なりといふおし及も。美濃なるお中。云。築城あり及も
 是く信流は各善達し。る。権。ありと撰。一。丸。中。今。分。よ
 や及。奈。良。邊の陣大攻めなり。負。抱。お。よ。り。つ。と。核。攻。め。と。打。入
 お。よ。り。秀。吉。も。此。使。よ。み。お。の。り。自。救。初。め。権。者。へ。月。廿。八。日。自。

乃三河より美濃一治とんとあつり。よて先陣之面を
 一被作おつり。ハ。吹。日。五。三。嶋。ありと。系。陣。之。系。徳
 候大吏の人々。小姓五人六人百連やりやうに。お。流
 逐し。出。く。と。の。り。け。り。お。乃。り。り。る。事。ハ。何。も。察。り
 ず。一。よ。兵。風。神。を。取。流。ら。り。ひ。お。向。ひ。つ。早。連。法
 美濃目か。お。存。り。者。り。よ。な。り。

○此小田原城をく士山中一人をさす

山中之城主として松田兵衛大吏殿自有一の虎と
 愛上り勢を不可お防氣初るるに因て。小條た忠
 大吏乃。美。濃。前。の。親。倉。能。電。出。と。加。勢。と。して。の。

美越之者提而冬之事よしてろくろく正月廿日
 三人とありあわたる親民政門同敷重之按
 た合者子益民之刀簡官子國若之刀於倉子職拾
 と陽り各救年授累之武功と度山平龍城
 之一年よ七人一一と也。再分万文、先武若赤子も
 在り。極忠死事し、何様にも何授忠義之兼決心
 と安んしとあへともあつらうまや立ころしとあへん
 事其美子堪きりいと濤座唾と感し出ぬ御念
 くる急廣万よおと親しき方付て云やし
 小保之忠誠己こよ極ぬ山中之城ハ善信兼

あささつりて多勢と強きつるや城あり
 と。然るよ四右之者死を親をよ給ん海あり
 如くよ折がされてけりよあひ死えつるは機子
 余ハ固義極しと云ふ又固事者くもろく下
 や。某た全吾遂討死あるまお明く一ノ首
 城ナリ直乃政ささとらるよ。あまり理に違ふ
 のこ多うも一なるはくくさきりいもさり
 そとさゆること云合つあまなり。○
 ○小田原蘆山支城押之内人あ縁より
 秀吉公所津屋入せあつて内所水きくはひつ。

なりし男よとくまうにふりお糸を束の封彼
 是三人か勢したまひなりと。其糸大支鏡
 城乃事うのく可致死よお寃め。松田尾張
 守のく書信の成りて云まうの某おとうなりし
 男よとてかりませむ。多勢を引送運をひく
 るとやうたぐい。然といは。古名字とけが来
 うら強よ可^キ是^{トナ}付^{トナ}死^{トナ}也。子孫相續の儀^{タリ}入^{トナ}也。
 管^カあうの寃^{トナ}よ義士^{ギシ}のるる人。糸糸大支を
 おもひ中^{ナカ}に城^{シロ}にこ乃^ノ働^{ハタ}とた。若^ニき節^{セツ}を救^スひ
 死^シを言^{コト}るよまうし。又^{マタ}數^{スバ}節^{セツ}と節^{セツ}義^ギ士^シ也。

○山中の母房をさす事

秀吉々之語々。お陣屋人此之寮もかよ
 けり。徳侯大支と被^レる連^レ山中^{ナカ}並^ニ山^{ヤマ}下^ノも
 のさ^サ山^{ヤマ}とと^トし^シ山^{ヤマ}中^{ナカ}之^ノ御^ミと能^レ下^ノも
 下^ノの^ノり^リ仕^シ安^{ヤス}と付^ツあり城^{シロ}と糸^{イト}と被^レる
 くと^ク安^{ヤス}に^ニは^ハし^シた^タ信^{シン}と^ト色^{シキ}を^ヲ取^リ安^{ヤス}下^ノ
 下^ノ方^{カタ}の^ノ使^シ者^{モノ}と^ト被^レり^リ付^ツ。又^{マタ}被^レり^リ人^{ヒト}の^ノ功^{イサメ}
 と^ト打^ウ納^ノ封^{フウ}立^ツ日^ヒ九^ク月^{ツキ}法^{ホウ}勢^{セイ}と^ト傳^ツ一^{ヒト}也^{ナリ}。
 上^ノを^ヲし^シ仕^シ安^{ヤス}を^ヲり^リ小^コ金^ネ具^グ也^{ナリ}。之^ノ被^レり^リ
 下^ノ可^カ被^レり^リ古^コに^ニ付^ツり^リ各^ノ及^ツを^ヲ何^ニ被^レり^リ己^ニと

河原より一筋り。勅令米式部が備へ任志
 ともしんや佐書にも及ぶと一旦せぬ成
 るるそく条しや攻くる色作つんとり
 出し。是れは昔月より一と。使志及之
 度まで被る一なり。他々務攻り
 つる人攻りゆへ。能く討ひ申中にも有し
 に因て。後い我も任せられ。此作へと云はる
 打撃場をさく。馳急と。高橋へ馳下り。臨
 下り十人計討つ。ひく。馳下り。後色
 八又先へ打下り。即先とさ。幾く。場の上。条

此の河原陣より。色毛。大古月。振也。とんよ
 やく。とろ。ゆひつ。水鹿。とま。り。打。ぬ。き。た。や
 大貝。は。ま。り。と。作。し。は。い。り。も。喜。ぶ。に。吹
 出ぬ。勅書。書。あ。り。成。合。平。屋。門
 射。書。金。助。八。郎。坂。井。兵。右。衛。門。吉。田。武。左。衛。門。射。後。色
 新。大。橋。の。赤。井。久。左。衛。門。が。い。も。は。い。り。お。九。乃
 とも。三十。乃。中。も。さ。三。町。余。り。と。敵。は。道。と。い
 二。三。入。り。し。り。と。なる。敵。九。乃。と。二。三。度。ゆ。一。合。を
 戦。人。と。せ。り。後。色。大。智。と。い。す。は。ま。や。わ。り。せ。も
 とも。い。ま。く。三。三。丸。志。保。り。き。い。ま。り。追。入。り。た。

他之勝一人も海へも中村の防乃もさるり。志之
 谷氏もれて大母交うけり。武者つ誘き切り
 ころもいよとけきわきこ搦手(衆人二人のや
 ろく首をひいて御印陣へ持来し。四月よりけ
 しくむおちりめり。今續之費首はとい
 てら下事あり。そ姓若と尋ぬ。是の志本新を来
 ともや。後色三々丸門らにね添て上業戸
 有しと付入しせきく。歎し。んり先子前を人て
 もあり。又い向やとねく。城より多く鉄炮を打り
 せし。ふとせし。そめくひいひと。去九業戸也。お

七也

決き志伊りともい方へ死て。志らうく。ましく内
 小。そ来り後色よ親とけ。そ海そ姓若とす
 の坂井兵大衛の射後色源七郎中川と平中村
 三次土方孫二郎右田久左衛門射守也。痛くや
 け去九の鉄炮よあしり。此果よりなり。源七郎此
 こもや。海より人勸急病よ。風甚に吹とら
 めり。形り。け而鉄炮筋を射乃もふ。あふ千人子
 おひ死んあ来し。た。それと是事とせむ。大
 誘を最乞猶業内化志ひく。とあゆ。来り。勸
 去誘出丸より。れ仕死相も。うら山。き振也。を

ことかんときり。さうゆゑはあまはあ合勢之溢也者
 大搦目^{カラ}あまは海にゆよとみく。は二之丸^下塀
 裏^{ウラ}さうら。鉄炮たがめゆとを^{ウラ}鉄やとを
 助^サけり。厚片。今ハ鉄炮ととのこいあ打およ
 里。波色^{ウラ}美^ミ先^{サキ}よ志^シ伊^イり^リれ^レ垣^{カキ}乃^ノ知^チり^リる^ルえ^エ。サ^サる
 斗も退^ヒき^キを^をみ^みか^かし^しも^も。二之丸^下門^{カド}櫓^{タカ}又^マ夫
 ち有^アる^ル業^ノ入^ノる^ルも^もな^なき^きに^にし^しり^り。門^{カド}之^ノ眼^メを^を打
 厚^アく^クあ^あま^ま入^ノる^ルは^は此^{コノ}の^ノ兵^{ヘイ}大^{ダイ}以^イ通^{ツウ}具^ク提^テき^き
 来^キり^リ。踏^{フミ}さ^サ戦^{セン}ひ^ひ。と。勘^{カン}兵^{ヘイ}集^{シユ}射^{シャ}大^{ダイ}音^{オン}教^{キョウ}と^と。
 多^タ之^ノ者^ノ引^{ヒキ}連^{レン}一^{イツ}鉄^{テツ}集^{シユ}あ^あま^まと^と退^ヒき^キせ^せん^ん。そ

二之丸も引て二之丸へ流すといふと。と。一は
 きあま入いよ。三之丸と二之丸との間よ。大はか
 水^{ミヅ}なり^リ波^{ナミ}蕩^{タウ}く^クなり^リ。是^{コノ}小^{コノ}十^{ジュウ}乃^ノあ^あま^まり^リれ^レは
 一^{イツ}と^ト海^{ウミ}り^リす^スみ^みり^リ時^{トキ}也^{ナリ}。敵^{テキ}と^ト打^ウま^まり^リす
 退^ヒす^スり^リて^テ退^ヒ入^ノり^リゆ^ゆ。今^{イマ}二^ニ之^ノ丸^ノ乃^ノ門^{カド}へ^ヘと^トま^まり^リ
 留^ルる^ルも^も付^ツ入^ノる^ル業^ノ入^ノる^ルは^はよ^よう^うに^に武^ブ志^シあ^あく
 よ^よひ^ひく^くり^り海^{ウミ}り^リ有^アる^ル。是^{コノ}同^{ドウ}也^{ナリ}も^もう^うけ^けを^をか
 丸^{マル}と^トあ^あひ^ひす^すみ^みり^リみ^みる^ル。大^{ダイ}板^{イタ}あ^あま^まり^リる^ルけ
 子^コあ^あま^まり^リ。鉄^{テツ}炮^{ポウ}と^トか^から^らう^うら^らけ^けと^ト大^{ダイ}板^{イタ}と^トか
 へ^へら^らう^うき^き。矢^ヤ切^{キリ}と^ト上^{ウヘ}へ^ヘ勘^{カン}兵^{ヘイ}集^{シユ}射^{シャ}業^ノ上^{ウヘ}なり。

肉は入るを以てむら問あり。人多く入る
 ざりせきくやまきん。大庭へるでこれか
 士二百餘シびくへん。くけんをとり
 けよと思ひへへあり。油シ種ありそん
 まけな。ゆりあへは遠色飛くあり。大庭をよ
 流さかりきれた。ぬいさ。此は
 修カ引よの園々。息イ法もれを引付こ
 へへは。そ候も車かせとうりへん。死シ
 方へ通シまおらまろひ。ゆりも無九の
 候遠色のひきこあふさる。法ハいそなすに

あひ一ゆふ。龍孫化は遠色友をよの村寄助
 了りるばり。候引つ運芝と候もよ
 上りてれえ。又かきへ候は。款百人余存す
 了りる。城に松回兵衛さまか現。川間文若
 前々。りともや成す。さきとも思ひん。切キ腹
 了りへは。法遠色。も現。之あり。運者とも
 地チりか。こころとトウと。糸入る。こころ
 丸もラフ去キヨてけ。おぼろ。小キ黄母ホ衣ホ
 流三サ流リ人ニあり。遠色よ。現。け。と。目
 出丸ニりか丸マそり。は。そ。け。先サとわ

らふとをみくも。一人れあううらうとをハ
 とかんじあうりき。い丸くそき方よりさ
 し流とひ業个一る中村馬あふ一と本
 丸乃屋らうおと一ま。と日山中城の式
 女捕一人乃うて業とり一ぞうと大なる
 おと心よりり也。くて或女捕は後道子柄と
 一い丸真たある忠義と致一うと悦ひを
 感入敷一くま一故と小書一くそ実を
 せゆ。秀吉のうりも式女捕と自ら大忠悦ひを
 との使及あふ甚面目しととらうに不意也

或那の指に呼かけ方ハ小田原よりとて
 何くさくし一り依りし屋うと徳と致
 祐平はう生は対時功とたう敏い水討を
 うゆのり一水及作あのか山一はくさ度さ
 平者としく一此だつうよあうたと立
 ら是徳と報らう可成りんやと一
 中村をひうと一甲一劫を果し一はのあ
 務と掛く取者大うり母妙ありく
 相傳く用いし一重一教に因て流
 一今此告り上り古兵うれと感有一也

湯尾若力輝曰中村武敏少備後河内國と稱す。八
 里川之中に城と中村一里と攻取し武功之也
 此よりかひ日く本道通中より傳へる
 左邊多之助兵束死。死に後多之助主とす
 には一私心なく。予々為恩物之地に
 雲隠法と伝へ了。越國國ハ三ノ七と物至に
 左へさす不。後多之助思ふ死に後多
 少之内許に城を築き。水と南に登り
 子出に。熱多之助。是と可。死と
 死。月。之。先。

一平國トリ

雲州

〇敵方より人殺儀之事
 尙あるも城の内を警備す。死に後多
 尺にて。伊豆お換成。荒上野下。理安。上。下
 総之。勢。日。万。有。存。在。人。足。三。万。人。と。以。為。軍。と
 多と。急。し。う。仲。妻。よ。お。洞。々。り。去。強。臘。の
 比。より。何。所。也。一。美。者。云。年。三。十。五。六。万。漆。三。月
 至。尚。國。可。致。後。向。と。六。つ。り。一。月。内。城。内。外。者
 傳。号。さ。う。く。報。告。し。つ。多。勢。下。と。あり。若
 松。山。と。云。節。所。入。町。一。つ。何。う。想。う。く。人。と。

有て痛す、業之とぬく廣玄一、時業系傳
 よとのわすい、揚友の軍一、却へあ、起上らど
 旬、於のとも多う、あ、ふ、あ、上、方、勢、と、や
 至、強、何、も、迄、充、満、一、は、ち、由、中、え、な、れ、い、よ、下、の
 勢、と、賦、ら、つ、り、り、れ、あ、い、
 宮、野、口、番、手、 松、田、尾、張、ち、上、野、め、系、武
 於、大、倫、東、安、房、上、総、之、國、人、於、合、平、勢、一、百、二、千、
 湯、本、口、平、繁、新、め、を、勢、八、千、
 竹、浦、口、小、除、陸、奥、守、成、田、下、総、守、 平、繁、上、総、守

皆、川、山、嶽、等、於、合、其、勢、一、萬、
 大、の、め、く、三、ヶ、所、に、後、所、と、據、一、上、方、勢、と、成、り、
 あり、様、あ、ら、ん、と、い、く、一、と、入、あ、ら、ん、や、ぬ、あ、ら、ん、
 の、え、い、ご、不、知、と、や、ゆ、や、り、あ、ら、ん、と、い、く、わ、ら、ん、
 愛、は、山、中、に、城、落、去、り、由、云、お、ひ、そ、め、よ、は、は、は、
 入、り、よ、落、人、来、り、か、く、と、し、な、れ、ど、お、田、原、と、り、
 ん、り、よ、や、あ、小、園、八、列、建、く、氣、と、失、ひ、恐、ま、
 り、あ、ら、ん、あ、置、よ、り、ん、山、中、と、心、よ、ら、ん、と、思、ひ、
 賊、室、と、送、ら、ん、ん、山、中、と、り、あ、海、を、さ、り、
 て、候、よ、ら、ん、南、吉、山、東、の、い、さ、ら、ん、さ、ら、ん、世、の、う

ことありく約束のまゝとあるべし。と。さうぞ
 りにおちげふらりか。ふ時のせり。上
 勢シキセの勢シキセ一ふととて。くまも人情シキセ
 やるらん。五十万騎陣セツシヨも山シ節セツシヨ雨シか。いん
 一とあるらん。の一と。新シキセく故シキセまら
 て止マドざりたり。
 信イの世人シキセに多くその威勢シキセの。くま。さ。の
 之シれ。して。無シお。と。物シあり。さ。ま。無シき。を。心
 あり。道シと。と。は。も。く。わ。の。う
 らん。め。ら。と。思シひ。ち。ま。り。村シ。氏シ政シを。その。比

実

いらし。き。者シを。さ。よ。り。も。究シ向シせし。孤シた
 あつ。と。節シ。雨シ。よ。り。諸シ。合シ。我シと。挑シ。と。進シ。と。る。と。ん
 情シ。ま。り。ぬ。べ。し。と。大シ。上シ。跨シ。つ。一。を。寄シ。あ。ん

○小田系筑城之事

卯月下旬小田系より相模山へ出。新シ。防シ。こ
 勢シ。か。り。して。い。と。く。く。積シ。云シ。一。て。地シ。節シ。雨シ。を
 契シ。め。ら。と。の。外シ。何シ。ま。り。越シ。す。ま。と。ん。や。と。敷シ。身シ
 笑シ。ひ。居シ。ら。り。の。三シ。ヶ。所シ。に。便シ。所シ。と。上シ。方シ。執シ。力シ。を。と

とせし。奉らるる。成とつた。い。若らわら。あ。は。二十
六方。誘ふ。惣。時の。都。と。奉。ひ。ま。落。て。卒。令。さ。り
越。々。れ。た。保。所。と。惣。一。支。も。ま。さ。り。と。卯。月。朔。日
留。系。一。迹。入。志。う。に。担。軍。を。い。つ。ふ。の。も。云。さ。ら。う。い。
重。て。の。慶。云。あ。い。ま。あ。く。や。う。く。担。搦。人。數。残。
と。そ。し。け。る。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
ま。と。い。ぬ。さ。の。さ。ら。う。と。つ。つ。て。先。立。給。ん。ん
と。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。
と。う。有。ま。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。
り。一。軍。也。ま。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。と。い。ぬ。ま。

赤坂口

三

取。つ。た。お。と。き。ん。や。と。赤。坂。口。に。つ。た。れ。た。は。ま。あ。ま
な。り。と。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
つ。大。軍。と。焼。せ。用。さ。さ。び。一。わ。り。の。卯。月。二。方。
の。及。口。と。定。め。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
け。く。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
と。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
角。り。け。ら。れ。た。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
う。ら。細。軍。に。中。ま。ま。け。ら。れ。た。赤。坂。口。の。赤。坂。口。
る。さ。ら。う。と。合。せ。一。軍。多。勢。あ。ら。う。と。赤。坂。口。
の。こ。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。の。赤。坂。口。

赤坂口

三

といふ所一又五月有ハ口とわさじ山七御も
相陣何れなる困クダヒ中果ミころやと秀吾ら等の
伊あつてサウカ子まゝとこゝひやらけけけ
ゆひつと。と下乃気うまやう新アキラし
て幾道と強うえいそつ節フせんやとあまか
しこものつつかにかにたり。或時ハまやとあ
らまゝしつひらヒレクダラし。櫓ヒレクダラの由堂キヨクダラの所
茶入とらり家原とと徳一入お家子細川
玄方兼由古に松村体居古。或時ハ佐藤口忠
沖兵と系務羽茶下徳守らと。お徳守又と

くは茶を賜つて十六七歳二十汁ハタチとる者アラ也房
はハタチしとせま分。授ヒの名酒と心ハタチ教無とく
しとのりふとくは抄ヒととせつとくは
のせうくと寛ヒしと。幸サウカは中入所お一
おとつと。者らけりヒと。物ヒと。満ヒ
屋一入ヒと。やうま。名陣乃ヒ芳と奪ヒと。ころや
より世のうなるヒと。と。取下ヒはけいヒと。お
と。と。と。作ヒと。く。口子人ヒと。つと。お
たりたれ。金の家の白ヒい。けやヒと。と。十
本斗ヒお。い。い。入ヒと。と。れ。座中ヒ薑

九月廿二

三十三

一海をいざんとらんくうくろちりりもていざ
 分を也遊ぐこきちくやきこきれとうひびが
 所運のあつとらきかたり拍子と合するや
 子好し有一毫子より花ちるん一や
 評曰秀者右之格と大取を賢主よりと
 以也あふんくうく拍子あふんや此人の勇甚
 せくまりしと素性よりて智の好し是より
 む何よりと一何くもと拍子よ遠小よりち
 くり一也若く難を論じ徳博と創決也
 は字やん一はひ一に中へ信也とぬききり

上列松枝と城を成濤人奉

去程上野柴流あり村家日子息形あり村家
 率三万遠越後政を強て至開東条向と
 され八強雪影く余をえんげう。通務自由と
 らるる子固て二月十六日賀列と立濃列了あ
 本を地と死て向ひりりおはしよ人よ六越後守
 上松強正忠景勝位列と任毛利河内守貞大田原
 立邦合其勢三万五千利家と大将と上列
 妻枝と城と打圍之明日より仕事と付の段
 千との評家より軍法は是村家一あさまた

大田原

三十三

城主大さう強何事。息形に命と内へ上り
 勢あり来ころ心軍せしと初かけられ九葉子
 お違へし子多勢なれどなまうあめり
 仕別へ付入子集てくくへと城中を
 守固めよりわ。其并始強難拘思甲と腹て
 降人と女先強之勢よりかりとんと。そ方強ま
 くれん利家そり吾と息慮へゆるよ。此故と
 取印をえ多くりの級を強へへ。そ上強三
 ともそへちん。此強まるとあし明り故と
 徳取先強の勢にかへ八列故こ。葉内せし給。

葉内。そ方小田原城中へ若也。成田下徳也
 上田上神のみと神へ。大名を迷志よりいへも
 一とくへ。そ方強を法取可
 然りん子お極め。そかあ精へくお調人等を
 法取。葉内。三月十日城と徳取先うけ乃勢子并
 せ葉内と遂さるれん。そ方強も七切利家
 忠義のなとそあう。葉内。

○松山之故降参之奉付八王与為故之妻
 松山之城主上田上野外、難波田園播字。本呂子丹
 波子。金子紀伊守。山田伊賀守。此は長子故と記け
 とふを力人山田原子義雄。ゆりくり。子丹子丹
 義前守村家松枝と稱と業田老として松山
 之故子推寄。妻を其子。先妻具と下と取子
 子。山とし里とと也。志うん難拍也。思ひ
 かん。故は臣之老を村家と降一徳と心降人と
 たり。先証之由務子加り。の後忠節之条。ふゆ一
 命。一統。子とひてを本故二と九と人。師。一。母

抽
トアリ

了。三十九。六。徳士乃妻子等。成入と事。定人者
 九。三千之。是。別。之。可。致。以。先。証。之。自。尸。之。事。
 也。村家則と同心。平九と九。已下。清九。三と九。よ
 八。人。之。者。ら。れ。と。と。妻。子。た。と。入。玉。先。証。此。勢
 小。と。と。人。業。内。志。と。と。十九日。氏。政。令。中。水。条。安
 房。守。氏。邦。名。城。法。形。乃。城。よ。と。と。女。信。考。と
 付。弓。決。槍。と。打。入。時。の。智。天。地。も。到。く。斗。あり。
 治。回。之。城。之。役。能。也。と。と。い。城。小。な。り。と。近。年
 於。い。多。推。之。あ。い。一。合。我。乃。行。と。と。上。方。勢。れ
 進。退。と。と。ふ。に。越。と。と。う。と。と。是。め。と。と。一。困。窮。小

カキ

二六

迫り居伏せは後難も取し。不降降人とも成宜
 しくりんやと。又亦人之家老お後しけさのを
 ぬらへんとい皆を愛し同し。島松山く守長
 難波田本呂子未小付へ信し。是も城と信死
 先近之勢小加へよりり。利家信しはの城と信
 とわんせられぬ。五万騎討りぬ。幕内老い多し
 関八列と信し。横小お動し。さくぬとまく打た
 ひも味方ふる。教ヶ前く城乃降人となりし。是
 利家小田原よ未傳し。は皆精し。くもりや
 ぶ。秀吉云いつにけり。らんを感心しお激女なり

志らぬ。利家と云ふ忠交に莫大のさうよらんを
 信し。家し。存するに海唯信をおなさり。あ
 有へさう。いふあり。さうよと。親し。さ方に付
 て信し。なり。そは所あり。てと度筑あさあ
 まる。この城も属味方。わゆる。さうよ。ぬ忠義を
 了。改統せ八ヶ所の城し。せめ。一城に破却し。極
 切し。一頁し。んおと。と。あ。さ。る。利
 家親し。さう。さう。告。し。る。利家。さ
 び。作。せ。を。ら。り。ハ。王。さ。る。城。未。極。し。を。幸。を。是。
 ぬ。て。政。平。志。接。切。し。首。を。あ。留。ま。接。と。心。ひ

大正六年十一月

二十七

つ曰共方味味一在の陣一降しより秀吉にお
りしあやうしと高利家城に招きのさし
一城も不棄干由きたりしと承知し
氣象あり申付幸陸分とと来陣りまき斗
ひ無神とて侍るもの何れぞ保めよと俵合
つるしめよ。案の如く利家我陣は是れし
く小陸この前と成降人之城へ七日か
三日八もさく城より折穿き解るるも依て大
道る路何方と向し自分内難は向本るも金子山
回再小橋と恐る方より城部合一もあやうと彦抽

忠功可成安堵せらるやと取りひは進は。美之刻
より打立せの木小八王寺より来陣し。案内し知
つと即町へ推破りしと。夜深りし在りわらほ
お城をりしと不知し進ハ思ひの事しに首捕てけり。
陸奥より小田原入城之町中城と横地監物中丸と
中山勘助由助并侍野一庵山下之曲輪と近友が
村々より逃げしもの降人へ見山より曲輪へ
押入るるは近友物具礼合せ防敵ひとりし
箱推しつらさつ若我しつ。美兵の道ハ右字
れ流し之事と婦らるる習やゆと。義と徳と

二回三十一

三十一

是ハ子孫ハ面以起シテ一及不義ニ死スと云々
 乃これぬまの面と汚と事。如漢符節と合と
 してたしやと鷹ト此士トの。か一に推積
 此よりき合世戦てと友ハ終ニ討死シなり。
 うりしは物ハ四方派とて此出ぬ。勲由由
 此ハ組ヲをそ一千余騎ハ小將トなり。格運
 過り來てとハ心有志二百余人も百人中ニこ
 るなり。代ホ小向トえまげりハ丈夫之格ハ義武之ト
 名義宗ト千の物なり。某数年奥列ニ置カる
 小次セれ親族トまへ年久シくも次トと為

一ハ奥列由由系入城せられたる形帯。生死ハ
 固對シて宣シ用控シ。尚倣シて子法心と安んニトと
 物一信りしと多勢と見て豈カのうまへんや忠
 死と尚然シて理ハ中ニ出リ。あ私ニこと客トて
 死ととせむ。汚名トを人跡トは終ニ先ニ祖ト
 名義と汚シ人ト一某ハかく格シころ格シ而シて
 光シる父母乃シつめシのつせシ子由あシ。只と
 後ニ上ニ情トを考シまシうシ文トけシふシと再ニ云フ一の
 在。日ニ母情トやぬリりシんニこシ口ニ情トをシる
 物トと心トと物トと皆トと思ヒ切リる形勢ト

初せんと思ひ再三名紫廻り志り有り利
家へ持来と〜と有り

河口雨森のうなと一巻首子付〜有り

を二子辞〜き係心中能お〜少〜

前古より大坂虎印の殺し首と捕〜

後乃争ひ死〜と叫り〜

む〜と有り我〜先〜他〜

〜と有り〜と有り海雨森亡魂〜

〜と有り〜或御の〜

〜と有り〜或甲〜

拾いゆく首子甲とを色甲付の首と記され

〜と有り〜此の某〜

〜と有り〜有り雨森がや〜

〜と有り〜有り〜

〜と有り〜有り〜

〜と有り〜有り〜

不丸より横成屋ぬが係奉勤〜

〜と有り〜有り〜

〜と有り〜有り〜

〜と有り〜有り〜

将野一為あまうたにひ突て如く。情を合せ太
刀折一。無接無入。川。こま。寂。ま。く。は。隠。生。
火とあ。してそ。我ひ。離。合。衆。散。別。ま。な。し。
疎。ま。ま。ら。に。ら。ら。な。れ。ど。ハ。十。五。六。人。揃。り。
り。ん。も。く。や。人。様。と。あ。さん。る。も。蓋。り。し。こ。版。
ま。ん。と。て。引。入。り。ご。後。々。志。つ。ま。り。な。り。考。も
早。く。勸。ぬ。ゆ。ゆ。三。百。餘。人。の。者。た。と。速。く。開。き。音。
お。當。る。や。取。手。な。ま。あ。ひ。又。丸。く。内。へ。引。入。り。と。
利。家。を。あ。ら。と。寄。り。し。大。き。く。中。の。家。中。よ。り。の
死。ら。し。り。と。志。と。志。人。を。あ。ま。り。と。回。り。く。金子

紀伊守小島新雅来ゆきま。は。久。く。云。う。こ。也
一。志。ま。い。と。り。な。れ。ど。利。家。を。考。え。ハ。り。ぬ。志。
不。と。邪。々。人。を。一。人。を。中。山。勸。ぬ。ゆ。ゆ。と。或。名。寄
功。人。の。免。し。物。々。一。考。ま。い。と。一。人。ハ。大。き。く。考。
有。り。の。故。を。先。と。け。佳。名。を。思。也。一。有。中。の。あ。
敷。子。加。り。ね。長。子。持。聖。主。胎。正。子。お。替。し。と。之。故。
監。乃。カ。と。わ。り。一。房。と。ぞ。甲。辛。作。の。友。し。と。而。
月。く。一。お。り。一。ま。さ。さ。え。而。使。り。し。ん。と。有。り。時。
無。類。ら。取。と。ん。く。ち。わ。新。く。い。ゆ。う。あ。ま。り。と。り。と。志。
一。志。ま。い。と。り。な。れ。ど。利。家。を。考。え。ハ。り。ぬ。志。

一不承字版

新おはにるゝとて先ありとやを承くら立乃
 者といひ此方うとと一人某七終て来うんと云つら
 う〜々り此者中山の丸へ糸門を懸ふくと呼
 ぶ其を答る者なり〜金子も出て終り終る
 よやと思ひ門の隙を叩き入り入れた物ねゆ
 が本殿あけ所の庭に繋ぎつゝうらひちく
 くれよとゆるい金子を手にておりにま〜い
 う〜もたんとてあふ物ねゆゆいふ二人ゆ
 へが妻一人所〜殺〜お〜七腹と切く付ゆを
 う〜もてうすよ〜お〜海〜い〜が〜か〜く

ろ〜人〜〜金子を承りあふよりけ〜〜びい〜金
 ろ〜回〜その指を〜〜お〜〜げ〜〜金
 子ゆいやくよ物ねゆゆと物け〜〜の供ゆ〜糸
 たりよ。能言乃や〜と一入ぬぬ存のせあ〜のす
 よお〜〜〜ゆ〜〜ひ〜〜げふ人〜らの終とて
 可ま〜〜と。孫め〜よ〜なり。

或曰横地置物入四石よ〜とま〜り〜。陸奥守
 よ〜〜〜〜〜と御ひ立方の後を盡〜〜
 了〜〜〜〜〜と付〜〜人の云
 孝行ハ奥列好む〜〜〜〜〜と云〜め有

姓とせよけて八金銀と取。法とともやま。
 治利ととむくぬ。其を孫玩と云。授婦と云。
 くら。其の何事か。孫め直され。此月終。
 子於威と云く。くぬる。おのら。おねの致。
 子加ら。授婦と云ぬる。中殿と云ぬる。ま。
 了。武異のそ八御と云ぬ。唯命吉利と云。
 と云。去る。そのま。中山野村。八と云。
 子忠死と云け。と此孫と云。く。く。侍に。
 孫玩と云ぬ。人より。二三日。その一。授子。有と云。
 ら。此女孫。そのま。の面と云。つ。く。つ。孫玩。あり。

大岡記

三十三

やる。多存。小人人。國家と云。るる。人の。ある。是毒。
 虫たり。然虫と云。ゆめ。た。お。孫玩。と云。な。何れ。
 何方と八王と云。乃や。う。ま。あ。ん。の。小田。東。孫。
 の。ら。中。山。の。長。子。四。六。言。一。店。の。子。孫。玩。と云。船。を。
 宗。廟。と云。ら。び。西。の。ゆ。く。ゆ。孫。玩。と云。地。と云。孫。玩。有。
 是。の。孫。玩。の。向。成。お。く。ぬ。孫。玩。と云。ま。を。申。
 山。孫。玩。の。孫。玩。と云。孫。玩。と云。ま。を。申。ゆ。く。ゆ。少。へ。の。
 づ。く。と。は。な。ぬ。助。ね。ゆ。ま。ま。ゆ。ま。そ。中。の。ゆ。の。孫。
 備前。水。戸。か。お。飯。一。房。ふ。つ。と。云。る。ま。二。美。ふ。孫。玩。
 後。見。と。ゆ。く。ゆ。ひ。たり。忠。孝。あ。う。ま。る。天。威。

大岡記

三十三

呼^{ナラシメ}無私乎天心。八王与之謀と利家一照に據
為^{ナラシメ}一作私家中之面^{ハカクキ}能^{ハカクキ}勅^{ハカクキ}有^{ハカクキ}一^{ハカクキ}九^{ハカクキ}侍^{ハカクキ}
評^{ハカクキ}一^{ハカクキ}あ^{ハカクキ}い^{ハカクキ}福^{ハカクキ}所^{ハカクキ}り^{ハカクキ}一^{ハカクキ}に^{ハカクキ}回^{ハカクキ}く^{ハカクキ}。男^{ハカクキ}等^{ハカクキ}呼^{ハカクキ}惜^{ハカクキ}乎

○武列新形之謀之事

新^{ハカクキ}形^{ハカクキ}之^{ハカクキ}謀^{ハカクキ}其^{ハカクキ}小^{ハカクキ}徳^{ハカクキ}安^{ハカクキ}為^{ハカクキ}為^{ハカクキ}と云^{ハカクキ}一^{ハカクキ}の^{ハカクキ}氏^{ハカクキ}以^{ハカクキ}之^{ハカクキ}今^{ハカクキ}予
あり^{ハカクキ}一^{ハカクキ}固^{ハカクキ}之^{ハカクキ}。周^{ハカクキ}東^{ハカクキ}謀^{ハカクキ}自^{ハカクキ}遊^{ハカクキ}軍^{ハカクキ}の^{ハカクキ}之^{ハカクキ}め^{ハカクキ}。新^{ハカクキ}形^{ハカクキ}予^{ハカクキ}有^{ハカクキ}
一^{ハカクキ}之^{ハカクキ}。後^{ハカクキ}亦^{ハカクキ}予^{ハカクキ}利^{ハカクキ}家^{ハカクキ}謀^{ハカクキ}計^{ハカクキ}之^{ハカクキ}と^{ハカクキ}回^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。尚^{ハカクキ}謀^{ハカクキ}方^{ハカクキ}予^{ハカクキ}
力^{ハカクキ}一^{ハカクキ}つ^{ハカクキ}。勢^{ハカクキ}人^{ハカクキ}先^{ハカクキ}並^{ハカクキ}予^{ハカクキ}并^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。そ^{ハカクキ}の^{ハカクキ}力^{ハカクキ}人^{ハカクキ}山^{ハカクキ}下^{ハカクキ}之^{ハカクキ}者^{ハカクキ}
龍^{ハカクキ}也^{ハカクキ}予^{ハカクキ}を^{ハカクキ}あ^{ハカクキ}く^{ハカクキ}。後^{ハカクキ}亦^{ハカクキ}予^{ハカクキ}の^{ハカクキ}謀^{ハカクキ}と^{ハカクキ}あり^{ハカクキ}。其^{ハカクキ}後^{ハカクキ}智^{ハカクキ}列^{ハカクキ}
へ^{ハカクキ}い^{ハカクキ}ト^{ハカクキ}一^{ハカクキ}到^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。病^{ハカクキ}予^{ハカクキ}死^{ハカクキ}之^{ハカクキ}進^{ハカクキ}失^{ハカクキ}ぬ。

○小田原回者 再思之謀事

思^{ハカクキ}之^{ハカクキ}謀^{ハカクキ}主^{ハカクキ}成^{ハカクキ}田^{ハカクキ}ハ^{ハカクキ}考^{ハカクキ}予^{ハカクキ}進^{ハカクキ}款^{ハカクキ}予^{ハカクキ}す^{ハカクキ}予^{ハカクキ}之^{ハカクキ}倚^{ハカクキ}り^{ハカクキ}久^{ハカクキ}し^{ハカクキ}毎^{ハカクキ}
身^{ハカクキ}秀^{ハカクキ}然^{ハカクキ}之^{ハカクキ}句^{ハカクキ}と^{ハカクキ}記^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。付^{ハカクキ}館^{ハカクキ}巴^{ハカクキ}法^{ハカクキ}橋^{ハカクキ}へ^{ハカクキ}使^{ハカクキ}之^{ハカクキ}と^{ハカクキ}上^{ハカクキ}
已^{ハカクキ}志^{ハカクキ}と^{ハカクキ}あ^{ハカクキ}り^{ハカクキ}。将^{ハカクキ}軍^{ハカクキ}乃^{ハカクキ}右^{ハカクキ}軍^{ハカクキ}予^{ハカクキ}之^{ハカクキ}有^{ハカクキ}け^{ハカクキ}る^{ハカクキ}山^{ハカクキ}
中^{ハカクキ}山^{ハカクキ}城^{ハカクキ}也^{ハカクキ}と^{ハカクキ}回^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。中^{ハカクキ}予^{ハカクキ}予^{ハカクキ}と^{ハカクキ}付^{ハカクキ}進^{ハカクキ}ハ^{ハカクキ}進^{ハカクキ}之^{ハカクキ}成^{ハカクキ}也^{ハカクキ}
第^{ハカクキ}固^{ハカクキ}之^{ハカクキ}付^{ハカクキ}一^{ハカクキ}予^{ハカクキ}。秀^{ハカクキ}去^{ハカクキ}云^{ハカクキ}内^{ハカクキ}之^{ハカクキ}そ^{ハカクキ}あ^{ハカクキ}り^{ハカクキ}と^{ハカクキ}し^{ハカクキ}と^{ハカクキ}云^{ハカクキ}
終^{ハカクキ}り^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。山^{ハカクキ}城^{ハカクキ}也^{ハカクキ}と^{ハカクキ}め^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。室^{ハカクキ}小^{ハカクキ}と^{ハカクキ}み^{ハカクキ}之^{ハカクキ}城^{ハカクキ}之^{ハカクキ}成^{ハカクキ}
回^{ハカクキ}下^{ハカクキ}銀^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。小^{ハカクキ}田^{ハカクキ}原^{ハカクキ}館^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。由^{ハカクキ}あり^{ハカクキ}。い^{ハカクキ}そ^{ハカクキ}う^{ハカクキ}予^{ハカクキ}之^{ハカクキ}是^{ハカクキ}は^{ハカクキ}孔^{ハカクキ}心^{ハカクキ}
と^{ハカクキ}妻^{ハカクキ}一^{ハカクキ}の^{ハカクキ}や^{ハカクキ}一^{ハカクキ}。予^{ハカクキ}い^{ハカクキ}そ^{ハカクキ}の^{ハカクキ}方^{ハカクキ}作^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。山^{ハカクキ}中^{ハカクキ}在^{ハカクキ}り^{ハカクキ}
何^{ハカクキ}ぞ^{ハカクキ}予^{ハカクキ}之^{ハカクキ}是^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。予^{ハカクキ}い^{ハカクキ}そ^{ハカクキ}の^{ハカクキ}方^{ハカクキ}作^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。山^{ハカクキ}中^{ハカクキ}在^{ハカクキ}り^{ハカクキ}
何^{ハカクキ}ぞ^{ハカクキ}予^{ハカクキ}之^{ハカクキ}是^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。予^{ハカクキ}い^{ハカクキ}そ^{ハカクキ}の^{ハカクキ}方^{ハカクキ}作^{ハカクキ}也^{ハカクキ}。山^{ハカクキ}中^{ハカクキ}在^{ハカクキ}り^{ハカクキ}

採一封伸寸志了。少年に就温田其の甚い也
悦之至文以甚深作。就中開八列氏政家人
之嫌と七八ヶ所或は成或降人云。然志
之所故個莫之也眼前に。其の爲先絶之志
業既未絶。昌不尙在唯と云寸思秀吉所
前之系直執了之系。而彼安沙人の。志絶意
内意尤。委曲使志。而得等之。系不道絶
竟也。恐也。謹云。

六月十日

中山政守

成田下総守致

人への中

中々く密通く使之。兼子小引。つり。ん
志意成田の陣。而系。其方。かくと云入。一。成田
志子。對向。口上。之。趣。亦。由。乃。下。た。七。あ。人。云
随。其。陳。果。祖。之。名字。を。お。續。一。系。先。祖。子。不。絶
や。し。も。也。之。也。と。思。也。一。五。七。六。日
伊。内。状。之。趣。原。以。才。難。兼。格。上。所。あ。し。極。子。直
極。資。入。外。志。地。兼。由。之。交。印。法。傳。之。口。志。之。系
止。管。故。之。上。夜。世。神。之。

志子の会日

成田下総守

法率乃多く出^イ来^キ毒虫とい^ハ来^キし^ハ多^ク利^シ
 八王^ハ乃^ハ為^ル故^ニ子^ノ固^シ生^ケ捕^ル者^多く有^リし^ト秀^吉若^ク上^ニ
 由^リ中^津へ^シら^ズ百^十者^多り^シ。陸^奥守^率之^子子^百有^リ
 條^ノ之^勢山^田原^務故^有一^法率^ノ父^母妻^子大^船
 子^六艘^子の^也。中^津原^ノ沖^ニと^魚り^ける^海子^乃
 後^不子^備へ^シ一^八王^守之^勢と^ス一^下。皆^ク鉄^砲
 砲^を以^テ中^津船^中子^在し^人を^以て^何七^八王^守と
 事^{あり}し^り。一^日日^本三^口夜^敵子^付て
 之^故に^勢子^行り^し。某^之父^母某^之妻^子と^二百
 人^計の^体名^実名^を呼^テて^之を^殺す^者衆^一と^シて^也。

父守り

於^便下^呼し^也と^ス。乃^ハ又^子法^七付^也。急^ニ三^博
 船^をよ^とて^鉄砲^をう^らけ^り。志^ク人^之と^シて^也
 有^リし^事能^似し^所子^衆一^故に^不あ^り
 乃^ハ子^無し^事一^日し^何に^行く^子に^伊人^相と
 子^梅り^し。而^シ中^津船^勢の^勢一^房首^をと^り
 入^船二^人子^梅也^中山^田の^言勢^を主^船と^是子^法と
 也^也。又^子對^を一^と呼^リす^一河^原子^をと^り。乃^ハ
 一^子は^也。相^え八^王乃^ハ為^ルと^ス。乃^ハ又^子法^七
 一^勢故^之法^率。此^一説^子心^とれ^ん。父^母妻^子
 一^とと^敵陣^子生^捕也^也。一^日子^{あり}也^也。一^日所^也。

大信記

三十九

さうしてかたをたておつて
 さいふをたておつて
 つくつておつて
 やまをたておつて
 一おらんおつて
 あつておつて
 さいふをたておつて
 まもつておつて
 たうふをたておつて

手見へス

ひあつておつて
 あつておつて
 らつておつて
 つつておつて

六月廿九日
 十名毎に
 十名毎に

十名毎に

十名毎に

ふり〜と。勢敵の目よしく見侍り心もよく
増ゆる。あるれあちまもよるく、いわ。十石はく
くと勢敵の祈思。氏直子孫らる。尚
茂敵より改。唯家康。唯
法陣一。走入て。敵と海。一。糸。敵。往。卒
作。助。ま。され。名。よ。秀。者。人。信。取。成。新。入。由。海。子
信。歎。ゆ。く。尚。災。あ。り。と。理。と。せ。め。お。つ。ら。に
申。乞。り。

○松田尾張守謀多之事

此尾張守、代々小條の臣とす。其勢力あり有條。
威。蓋。八。列。富。甚。洋。溢。一。あ。と。あ。り。と。ぐ。も。子。並
系。新。六。郎。八。國。案。く。又。又。二。男。松。田。正。由。の。忠。義。之。志
等。く。三。男。源。之。節。の。學。之。曉。一。む。の。高。君。孫。孫。等
也。子。孫。也。心。也。ゆ。も。艶。一。と。り。く。氏。直。を。く。ら
う。小。老。一。侍。り。き。権。柄。と。い。ゆ。丸。を。在。て。又。又。き。一
と。偶。也。松。田。正。由。の。尚。赤。城。亡。く。時。到。り。ぬ。と。先
ゆ。り。ゆ。く。致。す。亦。く。城。の。皆。開。り。ぬ。も。一。なる。也。
し。小。田。原。一。城。子。也。一。く。も。高。城。貴。程。有。け。り。也。

之上秀吉と申す。計策之欺子尙武勇ハ韓仁
 不の者わなれど中ノ運と用へき也。思ひ
 絶らる。我一人を以て七を給るるべし。故久
 大石一授秀吉之陣一入んと思ふ。六月
 八日其又後任れし。入る。久大石別を
 窺ひし。是天ノ興る也。我子
 ひく。海軍お摸永代可免。之方能。計
 の中。由る。因て。返る。わ
 秀吉。其口上。起。下。被。忠
 忠節。之。末。思。石。水。我。海。軍。お。摸。永。代。可。免。

持物者作。保。不。極。而。不。別。市。を。控。中。の。等。を。我。妻
 也。所。在。也。別。可。ら。作。越。以。恐。怖。故。也。
 六月八日
 然乎の名字あり也

松田五郎。と。批。尺。安。法。之。思。ひ。と。成。豊。助。二。男
 乃。知。と。中。城。と。呼。名。也。子。三。や。一。を。氏
 政。氏。直。某。子。對。一。若。汝。子。と。あ。く。之。所。子。と。甚
 以。不。後。や。し。子。ら。中。掛。は。つ。り。内。に。そ。の。子。も。存
 知。之。汝。の。我。を。不。好。時。て。携。を。折。こ。め。る。事。あり。と
 一也。我。乃。送。之。を。思。ひ。き。き。系。之。向。心。我。尙。横

とおしーくれよとて受けらるる如き深きとてく
 と家ーしーけるや。活力に水際家代と名にて
 其地と名に改まると孝子孫に二門一族
 其深き名にす。於開八列隠しおりのまは
 作。假令無縁は根有と云々此節ハ全義子此も亦
 也。然ハ思名通れ可成らんと傳へて。其地を而
 目七なる身。室子云々の業もあまぞ。此上の自害
 せんしつおハ。一とて厥の義子と掛し。其地を
 る物おとす。其様子思名入所ひあて。不及其地
 回し。其業。活心成あんーおと。まると。十官

奉事

まて。いそぎ。甲一なり。補く。や。た。ゆ。此。義子
 甲一。ゆ。此。義子。一。の。不。忠。不。同。列。父。一。の。不。孝。や。也。
 見ん。や。あ。し。う。一。か。し。う。か。二。と。重。重。思。ひ。け
 け。形。勢。と。尾。張。也。不。審。く。思。ひ。た。り。甲。十
 乙。一。の。義。子。是。原。新。六。郎。二。男。松。田。在。り。ゆ。其。男。孫
 三。乙。部。内。若。お。と。ま。ま。土。田。肥。地。也。其。義。子。一。と。て。
 乙。部。内。一。年。入。業。と。所。由。一。と。後。此。節。中。何。と
 不。適。心中。と。尺。及。わ。是。ハ。入。業。の。一。と。思。ふ。と
 乙。部。内。新。業。也。ま。ま。云。か。ぬ。興。子。を。し。て。若。是
 乙。部。内。若。お。と。ま。ま。角。ハ。改。甲。け。り。と。思。ふ。と。何。

七葉して足はは勢敵之為新之百ハ出中一と
 と思ふ也。その初ハ成田下流方ハ舞鞠を所磨と
 之をたがをのり力之上乃之と出中一と上平之
 心名隔子及之何をぬ。乞ハ橋子之太形所築橋
 与利家謀討とい。勢下取之敵と秀吉云々
 幕下ノ属一又ハ武常之功と勵一ハ五七
 城と攻平一友とハ尚城洞突之新ノ不美に
 之ハ勢敵之面ハ疑之ハ甚増起一尚家威
 之思介急之入一。某一人忠を之与一門一族之
 父母妻子女と一時ノ亡之ん子七口皆ハ於途之
 矣

之全徳之を教ひんと早少あり。明東長巻越
 中ノ地田三石其ノ耐城久大之ハ勢力也。某九一
 入之新ノ極之ハ所之方之と之を成以之と
 之。た之助十あり之。某と也。早度思ハ此ノ始て
 後合有。一日七八日。の日は亦不成就日。と云
 中一ハ新ハの某ハ此也。有之。早一ノ人ヤと保
 一ハつぐ。尾列同心一十七日之。某ハ其ノ極之
 之。其ノ保示ハ肝要之。丸多れん。海之。一
 之。之。ハ忠義少。一ハ何方一七不。あや
 盡之。夫之。多ク。自之。一。之。た。之。

足甲本丸を在しとありて一丸は其れは其れに
 其具は越し入るるに十字有實之割に本丸(忠
 入氏改直よりありやうい尾流有命と集り
 の下にならぬに三ちうく最と名を名色いん
 んと異くそ物来しとす其め斯てはわきまらる
 ん。又送之て人企り依中平急に西有治産と集
 明教是(石)其可成いりんやうい。その後(石)一
 海子より氏改より十ありし其尾流有命(石)一
 故の方使とてきりて出て集りてと。其集流
 集りては高集と集志やうて。故方より其方より

送心と思ひ立。其是池田路邊者三人の勢と出る丸
 (石)一後在日之其引入某父あり切腹せんとす
 之由内通有(石)一あり。その何ありくとひ立しう
 とありて一(石)一。時若やうい。その古(石)一。武田信玄者
 城へ物より其時我送之と合信玄と入現者
 之由敵方より其名と入集りて其色はくくと。實と息
 石。某人(石)一。其名を至し。その節七脚不存あり
 以し。その同者(石)一。其名あり。と陳し。其時。其
 と。其(石)一。其名あり。と印し。其名あり。と。其(石)一。其
 使りてし。其(石)一。其名あり。と。其(石)一。其名あり。と。

之國^{カキ}と日^ヒを^ヒ集^ルこ^トを^シ賦^スり^テ中^ノ坊^ノと^云ふ^モ也^ト。
 孫^ノ運^トと^云ふ^所也^ト。開^カや^ウも^ウ多^ク尺^ク一^ノ子^ノ固^クて^氏直^思。
 情^ヲや^ウい^ハ業^トと^為る^所也^ト。固^ク子^ノ有^ルへ^シと^テ形^ヲ
 一^ノ城^トい^ハ速^クな^リ下^ノ幕^ト下^ノ房^ト一^ノ於^テ者^也。
 腹^心の^めく^思ひ^一志^ヲた^シ也^ト。疑^ハ上^下之^力を^同
 と^ハ洞^莫之^力と^也と^云ふ^所也^ト。不^レ給^ル某^隣人^と成^テ某^隣
 城^ノ上^下と^云ふ^所也^ト。思^ハ意^をを^極め^テ。七月^六日^ニ
 於^テ尾^陣者^子勝^クと^也也^ト。形^ヲて^る也^ト。打^テ衆^山上^ニ大^衆
 一^ノ斗^メ一^ノ斗^メ。亦^亦亦^亦之^所也^ト。一^ノ氣^ト由^クと^云ふ^所也^ト。
 入^リ一^ノく^也。尤^モな^リ分^子の^然ハ^形禁^下総^也也^ト。

越^ス其^方後^中一^ノ更^ノ一^ノん^トの^務園^ノ一^ノ也^ト。集^テ集^テ
 了^ル某^隣人^と死^ニ集^テ也^ト。其^氏改^テ不^レ能^ク改^テ
 上^下一^ノ令^とと^云ふ^所也^ト。即^チ城^との^方也^ト。
 亦^亦亦^亦不^レ分^子被^テ宣^一一^ノん^ト下^ノ総^也也^ト。亦^亦亦^亦
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。
 亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。亦^亦亦^亦一^ノ一^ノと^云ふ^所也^ト。

方乃くをとりておとわらまうく痛まむ
 家物そとて燃ゆ漢紙片桐糸市正とを
 う一附至下と狼藉をき格よと新せし
 患安堵く旦ひと成をのりさ向くま
 了

○氏政氏照兄弟切腹之事

哀平痛平威者必哀之翌日七日まへん
 弟孫とまうて有る日引久七月一日

原安清料の完し極りて世に日改迫り来り時
 と縁有さゆ物よ越て哀をり用白告作けり
 と成是まへみ十方孫家来りて七か條家と
 打果たぬより有る一知る氏政の下志くぬ
 ん。魚丁の云案と宣しさし似たり。氏政氏照ハ
 切腹を也。氏直兄弟とのお助方家原ハ居お漢
 ませハを百一とさるる子なきは浦子付る檢使と
 そ宣らせける。我はより十日之候石川備前
 守。家原ハより林原武部大楠依と漢紙片桐糸市
 守。家原ハより林原武部大楠依と漢紙片桐糸市

作付り老り

或曰小桑於八ヶ國威甚いなりとて梅
 雨子氏政曰人を見ず實息もあまう有
 友子と黒子當つて大長と多くて
 不足る事と心ありて梅雨子君云はる愛
 息ひとりもて連枝とあてて百日
 七不海一期之りかふり秀方とあ
 り人の傍人曰小桑を年若超るて不思
 或不用武命ラハ米の程能白なる

臣

小田原と改と信託也ふ人といふ田中務め梅雨計
 兵部少輔林原式部大輔也て同方氏直と山
 へ上りの甲方と周て然し梅雨人といふ小桑
 洗馬の同乃秀信家老といふ田中務め梅雨計
 内藤氏と大伴孫六共米射余田大膳亮といふ
 といふて三十人存下て三万人とて梅雨計
 等子と存すて梅雨不被作付り

深田信之志方五十人今内介とて人
 思ひ作りて梅雨に秀信とて大伴とて心中
 一思之

三峰山よりして、松竹ありて人ぞ外、然るにこの入
 そく、具不、跡は又と、い下り有り、久、氏直并
 侍、人、し思、外、ふ、名、思、う、ふと、吾、君、此
 三、の、案、の、露、一、山、と、う、か、ま、の、い、日、域、一、箇
 湯、進、と、此、枝、土、子、強、つ、に、たり、時、命、は、及、以、小
 神、か、と、も、く、ま、と、息、錫、中、く、早、と、お、ろ、う、よ、と、受
 え、け、ち、と、ま、り、と、く、て、天、正、十、九、年、辛、十、月、十、日
 三、峰、山、に、り、外、さ、つ、つ、の、美、ふ、る、ふ、と、痛、ら、う、と、お
 月、一、知、り、天、正、山、よ、ま、ま、て、慰、一、の、中、の、終、成、法
 出、子、同、て、下、山、一、寒、吾、成、三、の、進、供、く、志、た、ま

て甚、悦、つ、名、酒、を、あ、む、一、日、を、送、り、ゆ、か、供、う
 下、く、か、く、時、と、ま、り、たり、四、立、自、二、月、天、正、一、を、
 大、故、一、終、百、茶、織、田、幸、真、と、く、在、於、一、白、米、子
 俵、を、介、十、五、種、つ、と、息、錫、を、く、久、芳、の、ま
 小、立、胸、を、わ、ら、う、ら、く、子、秋、菊、葉、と、唱、ふ
 衣、く、下、を、う、ふ、く、く、く、そ、ゆ、く、く、の、何、一、を
 臘、月、始、く、片、端、へ、ら、百、寄、法、對、面、は、是、亦、法
 三、こ、上、よ、亦、是、於、西、國、一、ヶ、函、可、終、成、終、助、の、
 心、作、海、一、を、り、く、く、て、何、一、種、終、て、絶、終、を、終
 か、一、三、十、三、宗、を、終、く、一、終、つ、終、ひ、く、す。

少業家之者。呼時有可也。

或曰。少業家之元能子雲。生國浮粉と云。若
既也。伊勢新ありと云。世にハ目てり。松田生國
く満勢。四内在。丹波。清水。益。京。又。仙。春。大。是
ち。心。危。列。生。國。ち。り。早。雲。備。中。く。り。武。志。
勝。り。よ。立。か。し。時。才。勇。並。備。り。古。と。り。り
得。し。侍。わ。り。り。と。云。侍。之。り。り。宣。し。た。て。み。ぬ
へ。り。笑。こ。り。り。

井

○奥列九所。故。流。尾。後。物。系。捕。事。

奥方。先。遊。八。流。生。患。三。云。氏。柳。御。号。花。等。の。り。
堪。尾。八。日。代。也。し。て。お。流。石。一。日。之。安。素。ち。り。り。
の。り。あ。あ。て。入。遊。多。侍。並。二。り。の。り。あ。あ。ま。あ。あ。
て。勇。切。の。果。ち。と。ほ。ま。く。と。く。り。り。惟。能。毎。日。
後。陣。の。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
也。然。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
向。り。少。後。細。香。と。唯。と。お。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。
と。侍。り。あ。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。

井

能勇士ありし并死せしむ唯本丸を捕て後
 せしりたしありしとくわく一物ごとくせけ
 其ハ本丸之兵共ハ章子落果て人ありと
 ちてい者さしん本丸を捕てあましく衆人驚
 と冷海一ととらへまよと申せり一擧めを
 つとむ人さしお極め本丸を傳ふりりり
 十二丸三三百人有一兵と調製と心二人
 死せり胡てハ首と伐くて首數七百五十
 秀吉公ハ母時長天宮下方新八郎と心を上
 々れんすか康美一ありて治感状あり

之と及奥列九戸之名故能有而捕殺之剛
 其數多以其方一力之覚悟即時衆捕首級
 七百五十到來悦日念山と股陣中身一
 子柄定一のあ日中すぬ之剛之是仍感
 状少件

天正十八年

八月四日

秀吉決判

御尾後ゆり

之と及退治之剛之始也あ一のら初付秀吉と

至之津有治勅在て後河原正少所石田治勅
か橋大岩形部か橋車切とてかきり
捨地と出車しつるに之り見賜ふ也
たのみ

○ 清光行刺之事

一 伊豆 相模 上野 下野 武蔵 上総

下総

一 尾張 在 小伊勢 五部

一 奥列 十七部

一 同 八部

大細云 家原卿
中細云 秀次卿
羽柴氏 源氏氏卿
本村伊勢守

一 三列内 十五万石

一 同 五万石

一 在 以 同 十二万石

一 同 五万石

一 在 列 内 二万石

一 臨 河

一 甲 斐

一 在 列 内 小室 城 附 五万石

一 同 小室 系 部

一 同 伊 系 部

羽柴云 先生 射 薙 以

田中 云 新 大 橋

尾尾 云 刀 先生 音 膳

山内 射 馬 守

渡瀬 在 橋 守 保

中村 云 新 少 橋

賀茂 在 在 河 守

子 石 在 兵 出 射

石 河 出 在 河 守

羽柴 河 内 守 元 基 元 利 也

一日本島二部

清菴入山後及石川掃部

一曰飯傍部

日根野織部

如斯各加増領領事つてつりやうと入部之神
と月おてつにたり

經白。粵子甚遠行らるり何れ。佐長云二男山留
中將佐雄之と。秋田人等流せられまら。完
秀者云つりつり人まら有。佐長云
取之如くわつ國を思病有。人皆志所
也。此乃と度七加増領之國と。七まらつて
ゆり。と。云。わらるる人まら

大岡記卷第十三目録

- 一 高麗陣起之事
- 一 高麗入評説之事
- 一 朝鮮國進發之人教
- 一 同大船被作付事
- 一 同軍役之事
- 一 泖控之事
- 一 名護屋指館之事
- 一 朝鮮陣人教試之
- 一 各書船之事
- 一 忠列落城
- 一 宰相秀家
- 一 小西を助成
- 一 海海之事
- 一 上帝之事
- 一 小西都入之事
- 一 太子之事
- 一 皇計以迄教義入勢事

一 小西魚舟入道舟く振威事
一 三奉行引還都表事

朝鮮八列

慶尚道

全羅道

忠清道

京道

黄海道

江原道

咸鏡道

平安道

石川浦

釜山浦

东萊

熊川

安骨浦

唐鴻

咸昌

忠川

大周記卷第十三

高麗陣起之事

南菴道喜重選

秀吉公既征汗馬之勞功亦登龍之佳運守王道奉成行幸上下雍和和く東南子雲治

里西北子風勢子し七口海の外是も其も其も

干幕下。此中細云秀治心子。何天氣。白

職等を讓り至。其ハ新羅百濟之麗子也く

とて海は國と通治。そよそと入唐。四切之

者其に爵福を厚く。其國之佳風を。之し

同も。吾朝之政勢を改めんと思ふなり。之

其予一人之志也。其可告之者わく。五人

之宿老。家康。輝元。秀家。三人之小宿老。生駒附楽頭

堀尾芳力 五人之志也。浅野彈正。中村式部。大浦。右出守。石田治部。長末。大森。

大浦。等はお誨し。その志を。お守りたり。五年

夏。東征のち。中し。控城之勤。ありて。外。評。お

給。天子。在。り。如。し。四。切。之。志。臣。諸。侯。之。面。も。今

ハ。干。戈。を。箱。の。た。り。し。り。や。鞆。に。し。五年之。勞。を

勉。ま。んと。此。樂。し。と。よ。く。り。然。れ。し。君。ハ。大。なる。志

を。人。も。ま。は。す。私。心。の。お。く。る。世。の。志。が。り。を。と。る。を

乃。事。ま。し。ハ。思。ひ。言。の。し。よ。ハ。は。り。人。あ。り。よ。め。く

方。と。之。と。い。思。ひ。の。外。を。り。こ。も。く。志。ま。ぬ。人。な。り

と。て。さ。し。り。一。身。も。も。る。又。屈。せ。ぬ。氣。を。さ。り。上。ハ

志。つ。た。り。懐。家。と。示。し。こ。ろ。と。人。な。事。に。此。と。云

つ。か。ん。と。も。も。る。

高麗入評後之事

五人之宿老三人之小宿老五人之志也。五年

八月三日九日大坂に征候し。お城せし。おん不

おし。御。茶。山。里。り。て。給。り。た。り。か。そ。後。作。お。越

ハ。吾。躬。を。斯。と。平。治。事。也。各。數。年。之。勤。功。一。周

て。たり。然。ハ。至。る。堅。固。と。し。お。勢。平。約。上。の。治。し。

之より入る。救國を領。功長之勞を報。又英國之政要と見ても。同。我が政勢乃
 中ら。永く太平之功を立んと思ふ。此の如くは
 換登と信給ふ。満坐待たせり。誰に左右も
 已沛也。此も。家康の如く。一
 一。此の如くは。可成先事。ゆり古
 被仰。秀吉云甚。此の如くは。来十
 英國に治門。此の如くは。上後。此
 之。大丈。其に。此の如くは。何と。此
 何く。

本
 首
 本
 本

真

朝鮮國御軍殺之人数帳
 肥前國名護屋在陣
 一萬五千人 武藏大納言友
 一萬人 大和中納言
 八千人 加賀守宰相
 三千人 宮津中將
 千五百人 結城少將
 千五百人 前尾張守
 五千人 越後守相
 三千人 倉津少將

江若
 常六

二千人
 千五百人
 五百人
 二千人
 八百人
 八百人
 百五十人
 千人
 千人
 五百人
 千三百人
 二千人
 五百人
 二百二十人
 百五十人
 二百人
 百人

二千人
 千五百人
 五百人
 二千人
 八百人
 八百人
 百五十人
 千人
 千人
 千五百人
 六千人

吉澤侍從
 伊達侍從
 本羽侍從
 金山侍從
 松任侍從
 八幡山京極侍從
 安房侍從
 羽柴河内侍從
 龍野侍從
 北庄侍從
 今市善作守
 村上月房守
 海口伯老守
 木下宮内女補
 小野下野守
 吉本紀伊守
 宇都宮沐三郎
 秋田左郎
 津浦右衛門
 南部大膳左衛門
 本多伊勢守

二百五十人

七百人

三百人

五百人

三百人

二百人

千人

二百五十人

千人

合七萬三千六百二十人

羽次左郎

吉田源五父子

折本河内守

石川玄米苗色

日祿野藏甲正

小條養流守

千石越前守

木下右衛門守

伊藤忠右守

郷前備

六百五十人

八百人

百七十人

三百人

三百五十人

四百人

四百人

五百人

二百人

富田左近将監

金森杜丸彈守

蜂屋大膳左史

戸田武藏守

奥山統海守

池田信中守

小水信流守

津田忠門守

上田左太郎

二
四
三
作

八百人

四百七十八人

二百人

二百人

三百人

合二千七百三十人

鄉弓銃炮家

二百人

二百五十八人

二百五十八人

山崎大馬宅

稻葉兵庫以

市橋下總寺

赤松上總寺

羽津下總寺

大嶋雲八

野村肥後守

本下右邊守尉

舟越右邊守尉

伊波守

宮本左邊守尉

橋本守

鈴木孫守

生熊源介

合二千七百五十八人

鄉馬廻家

四千三百人

三千五百人

市橋守 六段

小姓守 六段

五百人

八百人

千五百人

七百五十人

子二百人

八百五十人

千五百人

合一萬四千九百人

御後備前

三百人

家可受

御伽前

事下半外紀

御使後前

御諾前

御前

中間弓下

御前

五百人

百三十人

二百五十人

二百人

百七十人

百三十人

百人

百人

二百人

五十人

長束大藏左補

右田織部正

山崎右京左

藤田權統

中江式部大輔

生駒修理亮

月主安以

海江大炊助

河尻肥前守

池田清右衛門尉

百二十人
百五十人
百人
二百人
百六十人
四百人
五百人
二百人
二百七十人
百人

大堰与一郎
本下右京助
矢下与后守
与与万介 後号玄
番頭
与澤志摩守
寺西与後守
同次郎介
獨原右馬助
行中丹後守
与右川右兵衛尉
松尾右京進

七十八
二百五十人
百五十人
二百人
百人
二百人

川勝右兵衛尉
成家志摩守
河内膳正
寺西勝兵衛尉
那部与佐守
間嶋与右郎

合五十三百人
朝鮮國先掛所執
七千人
五千人

小西与津守
對馬与後

十奉
新奉

三子人

二子人

子人

七百人

合一萬八千七百人

一萬二子人

八百人

合一萬九千八百人

六千人

松浦刑部左衛門

五馬修理左衛門

大村新八郎

五嶋又左衛門

加茂主計左衛門

淵崎加右衛門

相良宮内少輔

黒田甲斐守

六千人

合一萬二千人

一萬人

二千人

千人

千人

合一萬四千人

五千人

四千人

七千二百人

羽柴豊後守

羽柴薩摩守

毛利左衛門

高橋九郎

秋月三郎

伊藤右衛門

戸田内少輔

蜂次加阿波守

三千人
五千九百人

羽林軍
生約雅樂隊

合二萬四千七百人

三萬人

羽林軍

一萬人

同小早川侍從

五千九百人

同久為米侍從

二千九百人

同柳川侍從

八百人

高橋之膳正

九百人

瓶上野介

合四萬五千九百人

朝鮮國都表右勢之京

一萬人

後前宰相

三千人

增田右衛門尉

二千九百人

石田治平少輔

千二百人

大谷刑部少輔

二千九百人

前野但馬守

千人

加茂遠江守

合一萬七千二百人

三千人

淺野左京大夫

千人

宮中兵部少輔

奉
九奉

殿 幸 申

三百人
四百五十人
三百五十人
八千人
三千五百人
五千人
三千五百人
千人
七百人

幸
萬井
南

合一萬五千五百人

作中原中
谷村羽子
石川肥後守
岐阜守將
羽柴丹後守將
同東郷信俊
本村吉陰介
小野本總兵助
板村兵部右補

後守細川
越中守
元長谷川
友之吉也

千五百人
八百五十人
四百人
八百人
八百人
五百人
三子人
千四百人
八百人
四百人

南條左衛門督
本下留中守
垣屋新五郎
畠村左兵衛督
的右左也
別下左後守
中村右衛門左
郡上信隆
服了宋女正
一柳右近將監

五百人	早川主馬正
二百人	新庄新三良
二百人	吉田兵部少輔
二百人	高田孝後書
三百人	片桐東市正
二百人	日主膳正
二百人	友龜三河守
二百人	大田小源次
百二十人	合二萬五千四百七十七人
二百人	毛利兵部
三百人	龜井武藏守
二百五十人	

三百人	朝鮮國船中
千人	合二萬五千四百七十七人
千五百人	九鬼大隅守
二千人	友孝後書
千五百人	脇坂中務少輔
千人	加友友馬助
七百人	來崎兄弟
二百五十人	菅平右衛門尉

千人

八百卒人

六百卒人

素山小坂を
月少傳氏

堀内安房守

秋吉傳三郎

合九子四百五十人

名護屋

在陣勢

合拾萬二千四百十五人

朝鮮国

渡海勢

合二拾万五千六百七十人

都合三拾萬七千九百八十五人

○朝鮮陣為御用意大船波打付先

一 東ハ吉蔭より南海を經く西國九列に至り海

邊より國々北ハ秋田坂田より中國に至りて

を國々之より拾万石に付る大船二艘充用

之可成之事。

一 水手之事備に家百石より付る十人死せしむる

手く之大船に舟中よりユラヨ余之水手ハ

至大船の船越之事。

一 是納ハ高十万石に付る大船三艘中船五艘

死作甲一の尸之事。

一舟之入用大形劫合の事。是かゝる通の事。
舟の方より請取の事。おれおれハ舟相次
中請取の事。

一取取ハ足許の次第請取等おさめてよ。
一水手一人は扱持方二人は外妻子と扱持は
川一の事。

一陣中小名中召らふ。女扱持を志之宿へ
つり一の事。是ハと度高名護屋へ
立の事。おれおれ一の事。

右条と女扱持と一の事。天正廿九年の事。

列播列泉列と浦とよ令チャクガシ志居一在志之
之志也

天正十九年正月廿日

秀吉

朝鮮陣軍役之定

- 一四國九列ハ高き方石よ付ら六百人の事
- 一中國紀列色ハ六百
- 一又畿内四百
- 一江列尾志勝ハ四ハ三百の事
- 一左三後直色三百人。是より東ハ何も二百人

一若列より能列よむて中間三百人
 一越後羽道二百人
 右之分來年極月よむて大坂(可被素)の
 作出況(目限)を可被治(守)る旨(省)
 陣不指合板(成)る迄(下)也

天正十九年

三月十日

秀吉

○就(高)野陣(控)集(る)

一人数折(之)事(六)里(と)一日(之)行程(と)も(九)合

在(所)を(在)在(六)里(之)回(外)中(行)中(の)次(中)

備(有)く(善)つ(略)よ(る)事(也)

一旅(宿)屋(賃)ハ(中)中(の)事(也)

宿(主)と(お)射(し)か(し)中(の)事(也)

一津(之)浦(之)番(等)に(多)く(志)屋(賃)之(事)也

一(中)の(快)炮(之)者(等)の(義)者(人)制(一)の(事)

一(中)の(快)炮(之)者(等)の(義)者(人)制(一)の(事)

一 行の宿務迄主吏の茶也身をまきさる。
 一 宿にいとく。理多事く。我はおもりの
 あら。南産よ。とらわか。中。日。海。あ。及。ま。く。人。
 一 之。人。之。候。名。之。名。能。之。記。一。付。と。上。を。一。
 お。理。之。事。

一 何事におひくもやうく。一 換。之。法。當。之。所。
 一 子。次。子。あ。ら。ん。ひ。ら。ら。に。若。知。と。一。一。廣。御
 褒。美。之。被。仰。之。事。

一 一。里。く。も。や。ら。二。人。つ。と。も。さ。い。ら。若。儀。屋
 と。ち。取。と。の。月。下。早。連。お。叶。を。う。よ。一。回。さ。と。

右条の堅可お守に有る遠背之義あり
 と。なる人迄告知せしめし也

文禄元年壬辰三月朔日より先陣水西橋津
 也。駕。取。取。主。計。以。是。と。先。と。一。て。毎。日。急。を。目
 かく。打。消。く。を。務。縣。一。さ。き。を。以。消。斗。也。
 一 漸。之。先。路。も。皆。ら。ら。り。り。れ。の。月。十。六。日。將。軍
 都。と。立。て。打。せ。給。ふ。約。列。之。法。度。向。き
 一 許。右。今。主。命。一。と。事。に。る。ん。ゆ。ら。し。と。ん。物。の
 一 野。あ。り。海。あ。ら。ま。し。に。洋。溢。せ。り。廿。七。日。よ

了結彼之勢。日之打つき。卯月又日六日。此より
 くらぬ。肥前國各護屋。其れに松浦さよ。那の唐
 土和と云ふ。ひみり。みり。是。は。水。と。旅。館。と。波。お。空
 九列。塔。と。て。う。う。の。ゆ。ら。ぬ。西。軍。路。に。枝。打。坊
 之。銅。形。と。外。水。半。撒。丸。あ。よ。り。も。ま。ん。口。十。八。万
 人。之。兵。糧。之。指。急。下。り。之。事。寔。業。河。も。及。ま
 一。き。こ。も。と。と。ひ。と。く。進。む。り

右護屋孫敏沙作事一紙

一 沙平丸と地を 長谷河宗仁法眼

一 山里すき屋 石田本工取
 一 杉松屋より 山後より一奥を
 一本丸より山里へ 此地を西筑後也
 一 山里書院 五る六る 太田和泉也
 一 同所 御着不 (河原在右事の村 石河共也)
 一 山里おう人 十る十一る 寺次志摩也
 一 沙平丸間 西王母 右京亮也
 一 筑山遺水あり 神らと好も 毎らやうに
 一 若む 奥の山より 河事云 右乃とま

庭きり。と次とる耕作之絵之。と次と
間。花鳥之文絵之。と外ハ不及記之

一山里基所 六弓四弓

観音寺

一山里湯産之弓

月人

兎臺之文絵有

也若川平苑圖

庭あとのつらつら思嬌之用。自然之景

文よのうん云乃城毛の。尾洲内津虎溪

と山水也。是よのうん増しと云ふ

一山里大巻取 九弓十一弓

石河共苑

取付小料理之弓

一山里房 六弓十三弓

石田木取

間毎々花鳥之絵有

一山里房 六弓十三弓

建部長得

一月風呂屋

多石控共湯射

一月湯屋 六弓十弓

石田渡左衛門尉

一月湯屋 五弓七弓

小石和泉寺

一月小矢苑

湯敷勘兵衛尉

一月二之丸番取

月人

一月之丸本取取取

月人

一山里之丸本取取取

月人

二月二階門
二月菜園

石向末又次

月人

親書与

二月大平三階之障撞堂

河原之志志の射

二月大平之門

水松部之御射

二月大平之門

親書与

二月取付少子三階之矢薙

月人

二月四階之矢薙

羽柴義作与

二月矢薙

西角

大和中御言

本

四

取付 二月三月

月人

二月九良角二階矢薙

海口伯耆与

二月取守下冠木門

大田和泉与

二月三階之矢薙

伴友之助与

二月南門

三月七月

龍野信俊 後以若枝与

二月外形

七月廿方石植

月人

二月大平三階之障撞堂

羽柴守部左衛門射

二月大平東之矢薙

七葉大為左補

二月小矢薙

八月八月

大和中御言

一月西方二階矢倉 十八石

後中陣正少弼

一月南一取付 三石八石

月人

一二月九大平矢倉 三石十三石

備前守平吉

一二月九西方矢倉 二石三石

羽柴河内守

一月寇木門

羽柴右近

一月西門 三石八石

羽柴左衛門相利家

一月西小角矢倉 二石五石

月人

一月取付 二石五石

月人

一月大子東門 羽柴右近

右作中將。さうなく難くはしむるまへに臨陣とて

一。杉ひさし。一。此事申す。三。吾に絶り計たり。秀

高在し。子獨あ。一。ら。ま。君りま。と。其。云。其。勢。の。と

多。一。是。心。育。之。人。在。り。又。似。ら。と。友。と。せ。り。甚。人

二。三。掌。事。有。り。主。隔。云。か。一。つ。排。有。り。の。誠。に

此。君。ハ。武。勇。多。謀。度。量。を。と。れ。度。き。事。ハ。

難。備。絶。難。之。功。あり。國。存。に。一。て。ハ。日。本。之。賊。鬼

ヤ。於。地。を。一。ゆ。り。て。萬。人。を。擲。一。兆。民。を。せ。し。け。ん

不。里。取。て。そ。の。力。の。榮。耀。を。盡。せ。り。勿。論。成。之。る

時。已。よ。る。か。一。ら。樂。し。こ。と。を。擲。め。作。一。た。き。り

事。一。旦。不。お。や。難。心。事。ハ。五。石。者。あり。と。其。非

池祇と云直たより神乃いまりてた夜をりけり
 とも少くともあひつておとくたつとも一様也
 げとくあの大信小信よし限くとも何處此上よりま
 とりてくり易曰天道廣満る益獲地之盡盡
 而流億鬼神富盈る福徳人之惡盈る好徳と
 名伏見大坂と作るまるとの善盡一ゆりては新
 ハゆるとおもむね一しよの假の事なりや。第
 五拾よ及事つくとあるや。もむりては人
 千人九百九千人や。多し。洲ろ智の甚とくなく
 足ゆ。

○約解陣人救儀之事

陣之勢の西橋津守が友軍を引いて魁とては
 く勢ハ廿五萬余騎也。船平之勢ハ九鬼大隅守。
 鶴津陸奥守が友軍た馬也。友軍作波のり
 服坂中勢大浦來濟足中。其勢方三万余。船平之
 勢ハ。福原右衛門助。能旨内蔵進。毛利直助大
 浦。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。
 秀家。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。
 形。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。
 是夜皆同音よそ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。其勢ハ。

屋行て遂軍源程法事可お定との事お
 出の文源元幸卯月十日悉く披浦へ恙ぬ九鬼
 の昔よりりり四り身大物方より出の久隅守船へ各
 言集り軍評程あり未し四一しきりり程
 傷一前程一史之儀そくろりあての叶はり
 たりとて事の前程文之前書と書此所
 何波か思慮思云とあり可被申と有り
 故白起請文お書之事
 船中軍評程之義各多分に付ちる一區とそだ
 てあり之事

一 推之之恥よよと。難義及ひまの助成
 之事。

一 疎之敵之仍あり。下尸請之事。

一 忠節之淺深依怙。貝頭負た。之請あり。

一 他人之勞を盗て。我手物ま。其仕る。

一 物見之疾。一たび。二艘宛あり。

一 名獲屋所本陣へは。係侍を。守り。加
 判。と。之。事。

くまの八幡火の薩電岩山大控現く御尋を
所慕つまをやの起請み御伴。

卯月十日

各連判せく。宛所ハ

まの記也

右の助り方りハ。平海抄調子目あり也。
さし酒を扱。船祝ひせんとして折二合指
三為か。ちり九鬼尤下船るに。いそそ。湯
漬をし。いそそ。修くの着枝是盡く。修ハ靴
酒も減く。何事し。らり。祈遊宴た。依後
ち子秋如六民を。松系系。承よ。八合を。並

お。品。府。委。と。ま。り。ウ。り。

名護屋より各船之事

先陣之方船ハ西接津也。も。勢。二。万。つ。く。勢
也。ハ。カ。カ。友。主。沙。以。二。万。金。物。思。田。甲。也。也。二。万
金。物。也。ハ。二。十。万。金。物。卯。月。三。日。名。護。屋。を。展
く。船。ハ。船。也。右。火。矢。也。と。り。主。幹。枝。也。
上。も。や。ひ。乃。總。成。と。も。教。子。艘。の。帆。柱。也。と。主。
や。ぎ。勢。也。奉。帆。也。上。何。く。と。の。志。係。勢。也。更
地。也。動。り。と。計。を。り。南。浦。を。遙。子。也。と。記。さ。き
と。又。事。ハ。多。く。の。大。船。ハ。船。乃。り。と。く。子。家。と

乃政付（ナリ）り幕（マク）と赤（アカ）まり。里（サト）の旗（ハタ）小（コ）松（マツ）
 相（アイ）に（ニ）く（ク）き（キ）や（ヤ）と（ト）て（テ）し（シ）る（ル）。野（ノ）山（ヤマ）乃（ノ）志（シ）を（ヲ）
 当（トキ）海（ウミ）より移（ウツリ）。立（タチ）田（タ）川（カハ）の綿（ワタ）と海（ウミ）に流（ナガレ）入（イ）りり
 如（ごと）く（く）實（ミ）心（ココロ）し（し）を（を）し（し）る（る）。古（コ）乃（ノ）る（る）も（も）と（と）重（オモ）く（く）相（アイ）
 も（も）之（ノ）思（オモ）ひ（ひ）也（ナリ）。欽（キ）乃（ノ）政（サマ）律（リツ）并（ナ）地（チ）表（ヒラ）多（タ）此（コノ）船（フネ）中（ナカ）と（と）熱（アツ）や（ヤ）
 小（コ）吹（フク）風（カゼ）と（と）下（シタ）よ（よ）け（け）よ（よ）吹（フク）か（か）。聖（ホウ）船（セン）を（を）政（サマ）乃（ノ）を（を）中（ナカ）の
 僕（ボク）に（ニ）そ（そ）も（も）上（ウヘ）二（ニ）章（シヤウ）法（ホウ）と（と）か（か）せ（せ）り（り）す（す）に（に）。風（カゼ）乃（ノ）り（り）。帝（テイ）
 憂（ウレ）き（き）。た（た）し（し）に（に）向（ムカ）索（ソク）の（ノ）り（り）を（を）し（し）。お（お）こ（こ）さ（さ）し（し）て（て）り（り）。
 卯（ウ）月（ツキ）廿（ニ）日（ニチ）乃（ノ）曉（キ）る（る）。風（カゼ）か（か）あ（あ）き（き）よ（よ）り（り）ぬ（ぬ）。志（シ）く（く）も（も）
 あり（あり）と（と）名（ナ）跡（コト）の（ノ）波（ナミ）あり（あり）ぬ（ぬ）。海（ウミ）上（ノ）の（ノ）また（また）船（フネ）

掉

小（コ）西（セイ）里（リ）より海（ウミ）上（ノ）を（を）と（と）り（り）。や（や）り（り）と（と）り（り）あ（あ）ら（ら）。
 何（ナニ）も（も）船（フネ）も（も）出（デ）る（る）。向（ムカ）奴（ヌ）風（カゼ）で（で）あ（あ）ら（ら）。あ（あ）き（き）よ（よ）り（り）ぬ（ぬ）。
 後（ノチ）に（に）と（と）り（り）と（と）り（り）。船（フネ）乃（ノ）こ（こ）ろ（ろ）船（フネ）を（を）制（セ）し（し）。射（ヤ）馬（バ）と（と）さ（さ）。
 して（して）熱（アツ）ぎ（ぎ）く（く）り（り）。卯（ウ）月（ツキ）廿（ニ）日（ニチ）の（ノ）朝（アサ）も（も）吹（フク）風（カゼ）乃（ノ）り（り）。
 一（ヒト）に（に）依（ヨ）り（り）。射（ヤ）馬（バ）乃（ノ）志（シ）を（を）し（し）る（る）。あ（あ）ら（ら）。船（フネ）の（ノ）船（フネ）を（を）
 小（コ）西（セイ）り（り）。舟（フネ）乃（ノ）こ（こ）ろ（ろ）船（フネ）を（を）と（と）り（り）。あ（あ）き（き）よ（よ）り（り）ぬ（ぬ）。
 乃（ノ）こ（こ）ろ（ろ）船（フネ）を（を）と（と）り（り）。あ（あ）き（き）よ（よ）り（り）ぬ（ぬ）。
 や（や）り（り）と（と）り（り）ぬ（ぬ）。船（フネ）乃（ノ）志（シ）を（を）し（し）る（る）。あ（あ）ら（ら）。船（フネ）の（ノ）船（フネ）を（を）
 お（お）引（ヒ）き（き）よ（よ）。又（また）逆（サカ）風（カゼ）乃（ノ）吹（フク）く（く）り（り）。あ（あ）ら（ら）。船（フネ）の（ノ）船（フネ）を（を）
 かり（かり）。小（コ）西（セイ）り（り）。船（フネ）乃（ノ）志（シ）を（を）し（し）る（る）。あ（あ）ら（ら）。船（フネ）の（ノ）船（フネ）を（を）

風をうきこむ。一、やまに、さるる。一、は、船がうり
まう。船を、おとす。一、お、用さ。一、し、待、看、は、く、お
月、廿、日、乃、南、之、刻、海、上、も、船、う、ろ、う、ね、と、船、を
お、一、金、山、海、へ、送、と、ひ、く、打、ら、り、可、を、打
破、ら、ん、と、せ、し、に、敵、二、万、余、騎、矢、少、と、ま、を、作、て、出
ち、か、ま、り、村、あ、り、水、を、鉄、炮、を、い、ら、り、ま、と、く、め、打
ま、く、込、入、終、り、二、三、之、九、人、進、入、本、城、を、展、已、之
刻、子、家、捕、上、下、八、子、五、百、餘、人、控、伐、子、志、く、ら、り
を、外、生、捕、之、者、二、百、餘、人、此、志、子、西、舞、を
以、手、を、過、の、子、子、を、同、子、是、よ、り、三、十、里、成、ま、に

敵、く、ま、く、移、ぎ、と、云、城、有、と、答、ふ、小、西、打、ま、く、諸、士
に、向、く、云、け、ら、ら、今、お、盡、粉、骨、を、送、敷、と、ま、ら
を、尤、ち、切、ら、り、飛、つ、り、と、敷、ハ、是、子、体、を、と、る、う
む、た、ま、建、た、げ、落、城、を、先、奉、の、い、海、め、り、て、
行、ま、く、久、用、心、を、ま、び、く、志、て、ん、お、ま、も、他、之、勢
子、海、を、入、る、事、に、地、を、い、さ、と、く、移、を、攻、捕、
他、乃、國、の、若、城、を、一、日、の、う、ら、に、二、ヶ、所、攻、り、多、く
の、敵、を、討、捕、日、中、子、後、一、御、所、の、御、威、に、恐、る
む、や、と、聊、た、少、じ、氣、を、な、し、ん、と、の、あ、り、者
ま、ハ、何、も、し、さ、さ、や、う、に、向、く、あ、さ、さ、さ、ハ、下、と、志

七月廿五日鳥の洞子よりまにまにあらはれんとて。そ
 れはよ及ひ。平之り刻子おわ。く孫またり
 即く境と時を作り立。町を打破。く。金山
 悔之落城。諸勢を挫き。里に志はく。よ。おそま
 さん。防を。戦りんせせと。乘つ。落外に。り。小
 西。支助。木戸。作。右。邊。の。村。ま。り。手。勢。の。建。進
 急。首。九。百。余。分。取。と。し。ま。り。取。の。高。城。子。陣。を
 と。へ。人。馬。乃。息。戦。や。と。め。り。り。ま。り。ち。く。ま。り。に
 敵。多。勢。に。く。ま。り。小。西。取。成。通。解。子。た。り。
 敵。乃。子。子。と。る。子。け。り。に。答。ふ。た。り。也。

忠別城之り

都と守護をんだり。忠別城とて。地之利をま
 名城あり。海に剛兵之將。数人。軍勢。七。万
 諸。兵。勢。運。り。ま。り。乃。遠。志。あ。ま。り。楯。勢。を。兵
 糧。以下。飽。ま。り。入。置。都。に。毛。此。城。と。ま。り。取。と。り。
 安。一。地。勢。り。た。り。と。り。通。停。り。け。り。
 備。あ。り。宰相。秀。家。小。西。を。助。成。一。家。子。二。魚。は
 海。の。事。
 け。取。福。子。小。西。持。康。も。り。熱。軍。勢。に。先。立。事
 莫。ち。行。て。父。金山。海。と。り。孫。ま。り。取。城。を。攻。め。

振徳威事甚に戦一軍行の次舟をつら
 ず。秀家ハ八木南目より小西り先陣を秀家心
 えり。思ひ家老の者たを呼集。深謀あり
 小西り先陣接群あり。孫深入して討死を
 せり。將軍の御為と云。某久し目と魚行り
 一。志向もつらなり。いさ敵てんよと云
 時。各形も。是候のいまと云。あてたり。ま
 い。幸と教の海上もあがりたり。船をおさ
 けりんや。尸上り。秀家私舟のたを呼
 び。むそくに比。羨と思ひ出。金山海一と云。

以へ。浦りまこと。次舟を定め。敵百艘乃。舟を
 あり。あま六。程多く。吹風いと。よけし。吹か。東
 も。と。ゆ。り。に。金山海より。なり。ね。小西り。家老
 機を。と。勤め。し。秀出。津波。海を。祝。家。刷
 ひ。げ。ま。い。ま。り。持。別。忠。勤。の。子。こ。は。や。う。は。信。と
 以。と。ま。し。り。い。ま。の。ま。に。り。上。り。秀。家。心
 あり。て。ま。は。敵。働。作。あり。く。小。西。に。扇。と。ま。し
 る。ん。や。某。ら。先。陣。の。り。お。北。と。は。り。と。ま。し
 の。糸。某。何。ら。者。と。お。保。り。と。て。
 卒。死。羽。擧。陣。激。志。と。し。一。度。と。素。と。は。

手搦之先可為治南家無二之忠功以甘某と
 越序に後海之義を方先陣至心許存
 と曉至千金少海明日を表しとる系陣
 方少の節、族の系不詳以、公と諱之

五月二日

秀家

小西務津也秀家

務津也秀家之書に寫しと殊不辨悦之
 る此上も一々を克くして先子孫の可待と
 ちうくうとらうやう事らんめりと。集や合と
 にかり。かゝ故に少歌小西に先陣成こさ禮

一もも事念に思ひ務津也より筆を
 も。同も事に傳うし。こもく人私を義陸
 ちり小西りするもさかかた人等より中け取
 少く怒りつ。一日より先陣人よりさも
 天の物成したる。日中勢大畧は海で由。そ
 ぞい海軍あり。小西里より忠列之城を
 七多捕。跡忠勤とやと。舟にくゆると
 助本は初右忠射を呼あひし津勢中
 後海に後海し。明日之中系陣多と
 かりいざぬ。約忠列之城を忠に捕つこと

ぬらうくまへとまげしは何れもたたりなき
ふとてむくこと用きし成之刻より打立
ぬく丑之時とおりまは城の禁に思ひ言
量と時考をよと考く奉りし中寝
取にぬの入たりぬくむさありつ。矢交り
まへ城も塞あつておのりた親疎我とまた
近き人とのせしりさりのほもひ攻上りし
に新風還て猶も悪情ひよやをち人多く
の傍乃中より五六子らや取合せ往せ刀を
の防戦ありし甚し夥し。小西志のひ乃をさす

伊勢の者百人をよとまげしは何れもたたりなき
山下を楯立しる敵度には思ひわたり。騎兵が
ちふふくせとて正立しり。勢ハ一被せし
抱りし。ぬ且重くつまきしけしは防戦
勢をよとまげし。あやんそめあよとに候しり
——やよと小西志の向しやうつ。一搦めりや
者よと騎兵を奉り合せたまは剛弱者よと
と下と争ひある所我の乃びり。一谷の
おちあし。もかやと思ひをきしり。切原をよ
ゆたりがし。さうり入。さう入。教に切く。控城

とつらき取勝時を奉討揃一育々集方
 亦此を平けり忠列之城落幸也都中
 え一六。先長之面を禱して曰此内裏滅亡
 之時もらぬ敵不逃去に重器よく置ま
 せ。さな津後に火を放ち煙のものを世に何
 事もし思ひせあひ一症おえさんやと禱せ
 半下は義に回一上帝を厚禱軍にのせり
 かく計の供養之祈りも拙さふ一かく
 の四信内裏に火城をさうすれぬ城亡之
 時来たにや機ざりけり。来り帝此城と

ありてくつおよろひ。毫に年久く恒たのまし
 都よりうとそぞのうさぬくにままの形勢
 中く物上らえてあり事さり。君成跡に心成
 る。先立はつらとほし何り。親ハ子成る心。
 子ハ親の行末にあらくしる。日來居候の
 一僕を考へ限子頼一人のりらまよハ
 せ給つんと嗚呼夢にやまきん。そまぬい
 表れり。又老ら父母の平と。我子と及て
 まよし多く。父母とハ亦にほ。兄ハ君
 乃先達とゆく親もまき。あり事と。孫入汁

○上帝之御事

天子ハ弟三乃宮と云曰さるる義列をさして
為させらるる二男乃王子といふてとてとて
結ひけらんをさる人さしけりて為りては國
の官人二男へ附まつせし一先臣にくま
ありと一と事也者之けり取ら哀に
結勝みしをハ八歳九才作のおきたり書
衛を抱みかく先を御事志ありといふ
祥に及しゆゆと云ふものぬじやる人そ
恩を助取く書お務とてり年へ在候て

親しく存育してけり。

○小西都入之事

忠列之在已に當る唐路ありけり行て給
入之御儀せんてか多敷主計取回をば
早田甲斐守瑞將かたさ守多増田右衛門尉
石田治中女捕大台刑了女捕小西按律
守守入書お務とてり年へ在候て
評議有けは都令先陣全計取てりといふ
計るげし云ぬ小西打交て南國之先
陣ハ日中斗く御之めさるる後ハ東に更

私子之らも事^ハ沖^ハはるまじに似たり。一向
 取まじき首^ハを敵^ハて^ハり。ま^ハり^ハと^ハま
 走^ルく^ハあ^リ。支^ハ陣^ハハ^ハ子^ハ物^ハ次^ハ身^ハに^ハま^ハん^ハと^ハて^ハ。既^ハに
 回^ル士^ハ軍^ハあ^リ人と^ハつ^ハる^ハ。あ^リか^ハあ^リの^ハ市^ハ出^ハる^ハ傷
 支^ハ陣^ハハ^ハ西^ハ邊^ハに^ハく^ハる^ハあ^リと。二^ハヶ^ハ所^ハ之^ハ城
 と^ハ只^ハ一^ハ人^ハの^ハ子^ハ物^ハに^ハく^ハか^ハつ^ハき^ハ被^ハ甲^ハと^ハの^ハ敵
 へ^ハく^ハ支^ハ陣^ハを^ハ子^ハ物^ハを^ハあ^リて^ハ河^ハを^ハあ^リて^ハ軍^ハの
 多^クく^ハ走^ルく^ハい^ハと^ハま^ハけ^ハま^ハる^ハ。山^ハ西^ハ邊^ハに^ハ眼^ハ
 を^ハに^ハあ^リて^ハ都^ハ入^ハ之^ハ海^ハに^ハ二^ハヶ^ハ所^ハあ^リま^ハり^ハ
 山^ハ南^ハ邊^ハに^ハの^ハ河^ハに^ハ百里^ハ計^ハに^ハく^ハ大^ハ河^ハを^ハ。

東^ハ大^ハ門^ハハ^ハ百^ハ有^ハ余^ハ軍^ハを^ハ走^ルく^ハ以^ハて^ハ其^ハ川^ハを^ハ。去^ハ世
 大^ハ山^ハハ^ハ多^クく^ハ河^ハり^ハ由^ハて^ハは^ハり。何^ハれ^ハも^ハく^ハも^ハ計
 以^ハて^ハ其^ハの^ハ次^ハを^ハと^ハり^ハと^ハり^ハけ^ハま^ハる^ハ。綱^ハ橋^ハも^ハあ
 と^ハま^ハり^ハや^ハり^ハに^ハあ^リ。ま^ハと^ハと^ハ感^ハづ^ハき^ハ。計^ハ以^ハて^ハ
 其^ハ首^ハか^ハく^ハ。あ^リま^ハる^ハ大^ハ河^ハを^ハと^ハし^ハ。内^ハを^ハく^ハり^ハ
 入^ハる^ハん^ハと^ハて^ハ。南^ハ大^ハ門^ハに^ハま^ハる^ハあ^リま^ハる^ハ。西^ハに
 走^ルく^ハ。生^ハ米^ハの^ハら^ハ二^ハ百^ハ余^ハ人^ハ。山^ハ川^ハに^ハ達^ハ者^ハら^ハ
 と^ハ都^ハ乃^ハ案^ハ也^ハ。子^ハの^ハ者^ハと^ハ。助^ハ守^ハと^ハも^ハあ^リ。よ
 さい^ハ。軍^ハ一^ハけ^ハま^ハる^ハ。自^ハ由^ハ令^ハに^ハか^ハく^ハ。計^ハ
 内^ハ川^ハに^ハま^ハる^ハ者^ハと^ハ二十^ハ余^ハ人^ハ。計^ハ以^ハて^ハ向^ハを

あり大川よりつりて。なるを乃船を流しと
てにかりがまふなり。此事は柳も名なき
り。大阿より着けるよ。廣き事十余町。誇ま
つて。まき海にかりしりちをせし。船やると川
上よりとくつん。ちとく人を見せ。船一艘もあらず。
美は海にやあつと。之をよと尋させ侍。
りて。たよりりけ。其日を日か。く河をこに
宿傳して。くら小西の五月十日の辰刻に
都にありて。東大門より入りて。入る。
や。又隙を戦りんとせり。戦もつん。

本計

城を四方石垣高くして。門あり。事十町
許もあらず。申し入る。てまた。り。
もきん。やあ。と。海に。
しき者。門の。水門。
は五十人も百人も。入る。あ。り。
に。付。け。あ。又。四。方
乃水門。鉄を。う。り。人。能。ま。け。
甲。入。か。は。本。右。射。も。
ち。あ。ま。鉄。炮。の。基。と。り。向。ま。
と。孫。入。て。門。の。戸。を。め。に。くら。小。西。大

本計

本計

の眼まなこというところかぬやぞくけとを乱らん坊ぼうとて
と於酒家よ入とまこととふかして軍法ぐんぽう堅かたく地
一いつ部ぶりまくと。也の合戦とてや。そまつて入
くも仕し死じをく。

福日大門あきほはを軍ぐん法ぽう多おほの乱らんま入いん
よま一いつ法ぽうとて。軍ぐん法ぽう正ただしくして部ぶへせ
一いつ一いつ處ところたり。完かん泉せんの傍そばの地下人地下人め法ぽうをく
く者もの一いつ人ひと長ながあつ勇ゆう士しうん。水みづ原はら乃
比ひふふ法ぽうをつま一いつ人ひと連つらのたわりあまはか
やの討うちのつらとせりは一いつて入いる者もの國くにに

徳名あり。い。まのまじよまらそ。

かくて洛中らくちゆうに折をりやうん家かに人ひと更あらたなり。内裏うち
よくくんまを監ま正ただ宮みやにとらむ。地ちをくく
り。小西せいせい外げ船せんをそく。我われ船せんを一旦いつたん一いつく賊あしつとをき。
四よ門もんとも固かため敷敷等どうのそく。ひくめ法ぽうし。玉たま。聖せい船せん
ま汁じゆ攻こう先せん手てを機は進しん之の事ことく。一いつと。明あきよと
一いつ時とき。是こゝハ小西せいせい初はつ入い之の先せん陣じんし。大おほ門もんをか
め者もの一いつたり。用もちの事ことあつ。い。又また之の人ひとハ入いる。一いつと
一いつ一いつの立たててかくと若わかぬ。かま教しやくおあつ。い
まのまじよ。服ふくを立た。やく教しやくに入いる。ハ何なにも

るん大王ハ返給子由らまひ。せりくはけり事と進
えんと。洛におまをて。そと後とてやうたり。

王子と返掛をたす計ハ勸之事

主計ハ洛中後儀の負^{カス}斗し^{カス}浅。王子と進給

と人たらん事と費^{カス}。集^{カス}兵と呼^{カス}集り計

あつた。入之先陣ハ某^{カス}せん^{カス}と流^{カス}法^{カス}も破^{カス}り。

進^{カス}と^{カス}り^{カス}。大^{カス}河^{カス}に^{カス}碍^{カス}く^{カス}。小^{カス}西^{カス}に^{カス}越^{カス}り^{カス}。

之念之限^{カス}り。せりく太子^{カス}成^{カス}進^{カス}給^{カス}んと思^{カス}定

ゆ^{カス}給^{カス}立^{カス}お^{カス}る^{カス}。さ^{カス}ら^{カス}う^{カス}。落^{カス}の^{カス}ひ^{カス}と^{カス}せ^{カス}給^{カス}り^{カス}。

夷^{カス}之^{カス}刻^{カス}は^{カス}出^{カス}つ^{カス}ま^{カス}た^{カス}り^{カス}。を^{カス}用^{カス}と^{カス}何^{カス}と^{カス}す^{カス}。

付^{カス}人^{カス}内^{カス}ら^{カス}事^{カス}用^{カス}志^{カス}立^{カス}人^{カス}て^{カス}る^{カス}連^{カス}る^{カス}具^{カス}等^{カス}ハ^{カス}好^{カス}

次第^{カス}に^{カス}沙^{カス}汰^{カス}一^{カス}は^{カス}よ^{カス}か^{カス}ら^{カス}む^{カス}馬^{カス}奴^{カス}候^{カス}。芳^{カス}せ^{カス}ら

原^{カス}子^{カス}心^{カス}と^{カス}流^{カス}よ^{カス}と^{カス}ま^{カス}の^{カス}と^{カス}付^{カス}に^{カス}く^{カス}り^{カス}。ま^{カス}時

よ^{カス}も^{カス}及^{カス}り^{カス}ん^{カス}。左^{カス}林^{カス}年^{カス}人^{カス}佑^{カス}と^{カス}呼^{カス}て^{カス}。ひ^{カス}そ^{カス}ら^{カス}ま^{カス}

や^{カス}男^{カス}と^{カス}せ^{カス}よ^{カス}と^{カス}者^{カス}一^{カス}く^{カス}ら^{カス}と^{カス}お^{カス}う^{カス}。思^{カス}ひ^{カス}

ら^{カス}て^{カス}一^{カス}く^{カス}。南^{カス}事^{カス}調^{カス}り^{カス}。ま^{カス}の^{カス}下^{カス}刻^{カス}は^{カス}思^{カス}ひ^{カス}。

ま^{カス}原^{カス}あ^{カス}ん^{カス}道^{カス}へ^{カス}と^{カス}急^{カス}と^{カス}あ^{カス}り^{カス}か^{カス}と^{カス}女^{カス}。秋^{カス}若

中^{カス}に^{カス}二^{カス}十^{カス}と^{カス}と^{カス}あ^{カス}り^{カス}。教^{カス}と^{カス}立^{カス}一^{カス}く^{カス}。主^{カス}計^{カス}ハ^{カス}陣^{カス}お

よ^{カス}る^{カス}ゆ^{カス}と^{カス}同^{カス}。清^{カス}心^{カス}ハ^{カス}教^{カス}に^{カス}か^{カス}と^{カス}。答^{カス}奴^{カス}各^{カス}具

さ^{カス}う^{カス}く^{カス}。叔^{カス}も^{カス}と^{カス}あ^{カス}り^{カス}。あ^{カス}ら^{カス}う^{カス}を^{カス}感^{カス}と^{カス}教^{カス}も^{カス}あ^{カス}り^{カス}。

未可事記

ぬりきありよとて取じつもある。主計取れりしはま
 一 案内者。知方たかに付く又案内者之求め進
 急いそひハ大子ハをやらん是某たかの縣あがたにおり
 ありあまとなり。清正天の与あまは幸あき一邦あがたを悦よろこび
 ぬらけり。引ひ引ひ鉄炮てつぱうを射入あらふおめささあん
 て攻入あむしひりめさあられぬ。城中あがた堪たかひて和なむ
 乞こあふ。主計取れを求もとむ。二男ふた乃の子こ十
 七歳しちを介ま官人くわんにん百ひゃく余人あ清正せいせいを討うち。清正せいせいも借かり
 の救すけよ加かく。清正せいせい乃の死しを嘗いて入いりまはせしを
 秀吉公ひでよしこうへ主計しゅけいは進しんり上じやうり。清正せいせいは
 死しす。

なす。とて。吉克よしかくの脇わき持もち黄金くわんごん五ご子こを被かけ
 下くだす。○秀吉公ひでよしこう就す清母堂せいぼどうは吳例ごれい清上せいじやう之事じ
 清正せいせいに後ご下くだの清母堂せいぼどう大政だいせいをい。清正せいせいハ公こうち
 子こをけさせ給たまひ。秀吉公ひでよしこうは海うみの國くにへなむ
 後ごらせ給たまふ。あやとおが。まづ。らせ給たまふ。か。つ
 色いろを教しぬ。い。や。と。よ。肥あま。國くに。か。と。云いふ。と。
 おん。は。徳とく候こう大吏だいしとのこと。一。あ。ま。より。
 清正せいせいも。さ。ら。に。な。く。さ。め。た。く。さ。ら。つ。こ。云いふ。
 そ。ま。と。あ。ふ。と。な。か。さ。と。六む月げつ半はんより。例れいあり。

ど見えぬひりり日よそ人柱とらんを流す。秀吉公
 へまごころ事。毎日つづきせぬひりりせうそこ
 もひよく粧まなく聞えぬせぬひりり秀吉公いじ
 りま二なきひたなき事かひひりりかよよ内子
 いま一たび見きてまつり。屋敷をちぬらせ流りん
 とて。まじか流すぬまにまらぬ。家康公利家おと
 作とらま。七月廿三日よ。あけかころか。かま。御
 船よとらせ流り。御流の兵陣前。はよら流り
 一。あつたのあ。

○名護屋御前を主と陣前

大和中納言
 勢州宮津少将
 伊賀守侍
 江州八幡侍
 播州龍飛侍
 朽木河内守
 水野和泉守
 伊波清吉
 橋本伊賀守

森右近大吏
 友室佐渡守
 浅野深江守
 同息尾京大吏
 同今身本下宮内少輔
 小川玄佐守
 伊波重門守
 生熊源介
 子石指兵衛尉

河原右衛門尉
羽衣河内守
日根野藏部正
伏倉元孫守
佐久馬河内守
齋川守左衛門
北条孫三郎
堀内守平六
北条孫一郎
美濃部四郎守

石川出雲守
吉田又左衛門尉
伏倉小兵衛尉
西川八左衛門尉
久野久右衛門尉
佐藤駿河守
大塚与一郎
落合友左衛門尉
降屋守左衛門尉
安井次右衛門尉

吉田守
南部源八

石河兵衛

關東前

江戶大納言家康
清城少將
伊左衛門政宗
小条助六郎
市羽侍從
宇都文治三郎

金津侍從氏
佐竹侍從
小条美濃守
吉田安房守
吉田源三郎
淺田下總守

那次之

南部大膳

小寺介

六卿

小野寺孫千代

内越宮内女補

高尾大次郎

小園宗

羽柴如久宰相利家

上校越後守相宗孫

安房里見信隆

秋田大守

佐野土支

小分川治戸女補

澁澤又五郎

三ノ屋伊勢守

由里宗四郎

羽柴松江信俊也重

羽柴久左郎

同義作守

海口伯耆守

吉本純伊守

村上因防守

表之御門番

一番

五馬中務口注守

大野宗甚忠

右田本三郎

大田和泉守

吉本大茂吉補

江別 歌守守

二番

三番

本走事

工

百番

寺澤志摩寺
河牧勅兵衛尉

西之丸河村後立

七百人

富田虎士右衛門

八百人

金本森死孫寺

二百人

蜂屋大膳兵衛

三百五拾人

戸田幸兵衛寺

三百五拾人

奥山伏後寺

四百人

池田後中寺

四百人

小出信康寺

五百人

津田長門寺

二百人

上田之右衛門

八百人

山崎元馬元

五百人

橋本兵衛寺

二百人

河崎友兵衛

二百人

市橋下徳寺

二百人

赤松上徳寺

三百人

榎本下徳寺

東二之九所後倭兵

三百人

五百人

百五十八

二百五十八

二百人

百七十八

百七十八

百人

百人

羽柴三吉侍從

千束大將太輔

古田織子正

宇橋右衛門正

蔚田指統

生駒修理亮

中江武部左衛門

生駒主殿亮

海江大炊助

二百人

五十人

百二十人

百五十八

百人

二百人

百七十八

四百人

五百人

二百人

河尻肥前守

池田孫右衛門尉

大塚与一守

吉下元常亮

大村忠房守

吉高玄蕃守

吉澤志麻守

吉西龜次守
同次市介

福原右馬助

竹中丹後守

本朝未

二百七十人

百人

七十人

二百五十人

百五十人

百人

二百人

長谷川右兵衛尉

松島右京丞

河津右兵衛尉

伊東志麻呂

伊東内膳正

服尸土佐守

吉野勝兵衛尉

右一日一教死之悔意二二勅使也

御中丸大平御門番

一番

二番

服部右兵衛尉

恒屋後河守

建部喜右衛門

中丸裏表御門番

一番

二番

三番

四番

中江式部大輔

山崎右京丞

石田本三郎

吉野川右兵衛尉

五番

石河儀助

六番

志摩平吉

七番

長束大藏六郎

八番

服了左衛門

九番

蒔田隆佐

十番

福原右馬助

右一日一取宛望之

三之丸 泚番前

泚馬廻

一番 石川組

石川紀伊守

古橋右左衛門

佐藤半介

金森掃部助

田丸勝八郎

七持勝七郎

片岡存彦次

中村七助

雲林院忠介

熊川助之介

森村三平

坂井理右衛門尉

水野源氏惠尉

水谷次右衛門尉

坂井彦九郎

水羽源氏史

落合新三

高田源次

市川市作

土肥久化

上田孫三郎

宮村清三郎

平井金十郎

立野孫十郎

二番

中津江

中津尾兵衛尉

喜山孫八郎

新友新八

村上左兵衛尉

坂井平八

長谷川左次郎

小澤甚八郎

森原孫介

吉田辰三郎

芝原辰三左衛尉

池山新八郎

宇野傳十郎

水原泰三郎

矢野十左衛尉

塩屋金次郎

長坂三十郎

赤十右衛尉

高田源十郎

藤田清右衛尉

河原孫兵衛尉

基内

三番

長坂次郎兵衛尉

長坂次郎兵衛尉

木下小次郎

津田新八

赤府三右衛尉

坂井辰三郎

河副武平

一柳大六

安月甚七

尾村為三郎

山名市十郎

非

日比野小十郎
岸 久七
大谷次郎右衛門尉
長江教十郎
落田源次郎
松植次郎右
安丸左衛門次
備後左衛門尉

田中

葉原組

矢野源次郎
廣原加吉郎尉
山口庸彦
山口三十郎
田中教七郎
五十表少年次
山内半三郎
田中三十郎

葉原次右衛門尉
本石八郎右衛門
村井吉兵衛尉
平野九郎右衛門尉
平野新八郎
赤田三郎助
板原吉七郎
長中清彦
大庭右衛門左衛門尉
平林隆六郎

秋吉教次郎
多摩尾久八郎
津田掃部助
河田九郎左衛門尉
越智又十郎
生能丹左衛門尉
中川長助
伴地知右衛門
長中平吉

五米田 中井組

中井平右衛門尉
松原六郎吉次尉
小出源平三郎
吉田三左衛門尉
石川重助
小崎吉右衛門尉
山右衛門七郎
矢野九郎次郎
赤尾茂八郎

多加久右衛門尉
海口傳三郎
荻川助八郎
吉田九一郎
少原茂七郎
石尾与吉次尉
安宅龜海八郎
吉田清左衛門尉
松浦合平

赤尾

赤尾兵衛
加久茂山也

六米田 堀田組

堀田團十郎助
野上村次兵衛尉
金部清久三郎
加久茂清左衛門尉
大津久兵衛尉
桑山平右衛門

佐久右衛門
吉田又七郎

上條氏平太輔
村松宗七郎
伊木半七
大山徳兵衛尉
山平加兵衛尉
山田平兵衛尉

井上彦三
主熊与三郎
矢野久之三郎
村松森八郎
西条屋治四郎

林徳兵衛尉
与清久之右丞尉
園甚右丞尉
吉田市彦

中丸廣間之基四郎

与四郎

一壽 伊敷徳

伊敷丹後守
桑原均八郎

津田少右衛尉
福原与三郎右丞尉

幸有...

本合又左丞尉
吹田毛右丞尉
畠村清右丞尉
坂堂勝右丞尉
三上大藏丞
小栗助兵衛尉
畠田勝五郎
津田新右丞尉
竹内虎介
吉田与三郎尉

长堤清右丞尉
村田与三郎
那波助左丞尉
上原次郎右丞尉
酒井助左
三枝与三郎右丞尉
尾関甚介
清水清右丞尉
高橋清三郎
吉田彦六郎

列

又富... 十三

百十八

松井新介
三村九市左志門射
村上兵部丞

米田... 左志門射
山口... 左志門射

二書 河井組

河井九市左志門射
森之丞兵部射
生約... 左志門射
石河... 左志門射
生約... 左志門射

三好... 九市
三好... 石志門射
三好... 為三
依之... 左志門射
松... 左志門射

飯沼... 左志門射

北... 左志門射

三... 左志門射

河井... 左志門射

伊... 左志門射

如... 左志門射

林... 左志門射

林... 左志門射

林... 左志門射

生... 左志門射

三... 左志門射

海... 左志門射

三... 左志門射

高野... 左志門射

赤松... 左志門射

清田山五次

山守新四郎

六四五一落

平彦作

塚井新右衛門尉

依之控左衛門尉

河内善三郎

平塚因幡守

と升右衛門尉

朽木右衛門尉

赤松伊豆守

清田三左衛門尉

清田部介

橋本新六

清田控八郎

木村友介

清田右衛門尉

乾友九郎

貝塚五右衛門尉

吉野左衛門尉

平形甚介

四番 佐友進

佐友進守

長谷川甚兵衛尉

竹橋三右衛門尉

福富平兵衛尉

上野中務少輔

安部仙三郎

飯沼二右衛門尉

伊丹兵衛尉

岩倉原左衛門尉

大屋三右衛門尉

赤尾清六郎

飯沼合盛

河村圖書助

吉野左衛門尉

平彦作

山

山

山

大屋山之上
河村後三
余田源之上
吉田宗四之上
吉田宗五之上
飯尾善左衛門尉
枕原源六之上
赤部七介

五番 尾子組

善本善右衛門尉
枕原源三之上
橋本九右衛門尉
吉町新介
安足新六之上
吉町源四之上
舟津九右衛門尉

尾子組

尾子善右衛門尉
東条紀作
高橋三右衛門尉
永原孫左衛門尉
上田勘左衛門尉
井上新介
河毛次良左衛門尉
野口白久左衛門尉
渡邊九右衛門尉
松山村八右衛門尉

春日九右衛門尉
中村掃平
尾坂新次郎
山縣修源亮
三好助右衛門尉
橋原信左衛門尉
田村了十傳次
善本左衛門尉
河毛源之上
松田源右衛門尉

赤針

水原又逢

修葺寺在東門村

河毛後次郎

安藤吉其木尉

加賀後次郎

河割後次郎

田形尸与在東門村

聖昌後次郎

道本助右衛門尉

六番 速水組

速水甲也守

白根之馬助

山中又左衛門尉

依之孫千代

白根之吉左衛門尉

後寺之守右衛門尉

中川右衛門尉

子秋又三郎

少村之右左衛門尉

森友右衛門尉

藤原又一郎

依之十左衛門尉

高善助

宮崎半四郎

竹内源介

安藤傳右衛門尉

少坂助六

史之白甚治郎

藪田伊右守

森村右衛門尉

菅直之左衛門

依之存三郎

山中又左衛門尉

吉之助六

南見孫介

小村之助

於村与之右事門射

右一日一報死之悔怠てしし勒付ら也

七月廿二日

御朱印

御母堂大政所御吳例日くにおとらへさせま
子因て醫所御評之上。其趣を秀次へ
上志ら八。毎日御泣きをなせ。御軍ハ御氣志の御
彼間古御扱ららるるを此迄にやして七月廿二日

大正十三年

五十二

右獲ふを之かてせ給ひ。此以て名を大書し
か。此は付ぬかと。さの上。此は結。此を御目。是も
水。子。己下。御油。御。付。旨。出。し。給。付。し。也。
毛利右馬以。運。元。ハ。朝鮮。在。陣。也。也。子。右。大。
夫。秀。元。ハ。知。少。也。を。御。せ。し。右。獲。ふ。為。所。人。舞。
来。上。し。ゆ。り。ぬ。秀。右。云。出。採。嫌。し。之。御。上。可。致。
百。連。之。出。上。し。お。て。中。伏。せ。し。ゆ。り。ぬ。御。也。よ。
未。右。云。御。所。御。起。る。内。裏。之。御。組。板。漱。之。御。
不。へ。む。ひ。し。る。自。然。出。し。名。事。し。て。之。御。也。右。大。
夫。也。御。所。御。起。る。内。裏。之。御。組。板。漱。之。御。

大正四年一月一日
五十四日

けつるはるる御家期乃西の海をいふ事なり。
^{キヤク}言廉もろろと^{セキ}松とんことか^{キヤク}に依てあり。
一入^{シホ}御家ぬゆることなり。なりなり梅^{ウメ}ぬとん
ういそあき。池元たさめ此事大徳ちんを有ら
^{キヤク}松か古今をいふなる例^{タカシ}よまうせとんひま
^{キヤク}り^{キヤク}中。徳^{キヤク}古院会心とん^{キヤク}玉^{キヤク}仲^{キヤク}和^{キヤク}高^{キヤク}と^{キヤク}彼^{キヤク}経^{キヤク}対
^{キヤク}お^{キヤク}り。縁^{キヤク}と^{キヤク}善^{キヤク}と^{キヤク}ド^{キヤク}養^{キヤク}流^{キヤク}と^{キヤク}る^{キヤク}作^{キヤク}善^{キヤク}と
^{キヤク}か^{キヤク}り^{キヤク}に^{キヤク}る^{キヤク}通^{キヤク}流^{キヤク}と^{キヤク}ぬ^{キヤク}又^{キヤク}九^{キヤク}列^{キヤク}と^{キヤク}部^{キヤク}と^{キヤク}世^{キヤク}流^{キヤク}ひ^{キヤク}け
^{キヤク}利



天
天

天

天

